

第29回神奈川県美術展



第29回 神奈川県美術展

●1期展：
工芸、書、写真

平成5年10月6日(水)—10月17日(日)

●2期展：
日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形

平成5年10月20日(水)—10月31日(日)

会場

神奈川県立県民ホール・ギャラリー

主催

神奈川県美術展委員会／神奈川県

平塚巡回展

平成5年11月4日(木)—11月9日(火) 11月8日(月)休館
平塚市美術館

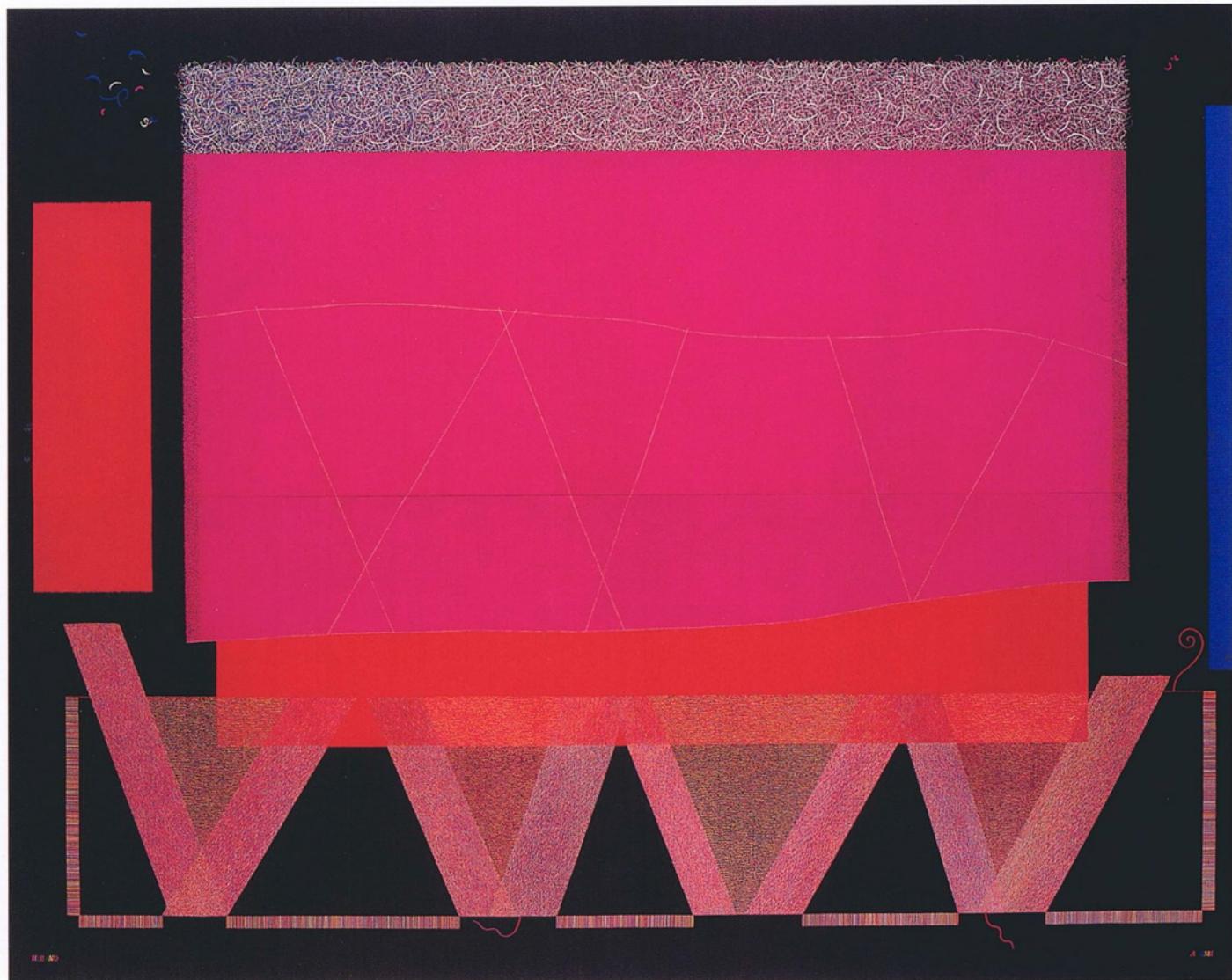
小田原巡回展

平成5年11月11日(木)—11月16日(火) 11月15日(月)休館
小田原市中央公民館

厚木巡回展

平成5年11月19日(金)—11月24日(水)
厚木市市民ギャラリー

1期展：工芸、書、写真



●大賞／工芸 電解ザウルス……平野 朱美

桃舟逐水愛山春雨
晴行始盡青溪不見人
山口潛行始看紅樹不如遠行
一叢映山開曉望旋平陸
遇改秦衣服居人共佳武陵源
竹根拔雲樹近入牛家最石
都閭酒客初傳漢姓安居人未
通提物外起田園月明松下雲
間及至成便還不還峽里雲中聽大喧
知有人事世中還望空雲花開海幕
不疑重境難聞見塵心未盡誰
終板長斯衍自謂經過隔山水辭
不遠安知峰壑今來變當時
源何處是桃花水不辨僊

王維詩芳碩書

●準大賞／書 王維詩 桃源行……橫山 芳碩



●準大賞／写真 青春ラブソディー(湘南海岸)〈3枚組〉 ……川田 良江

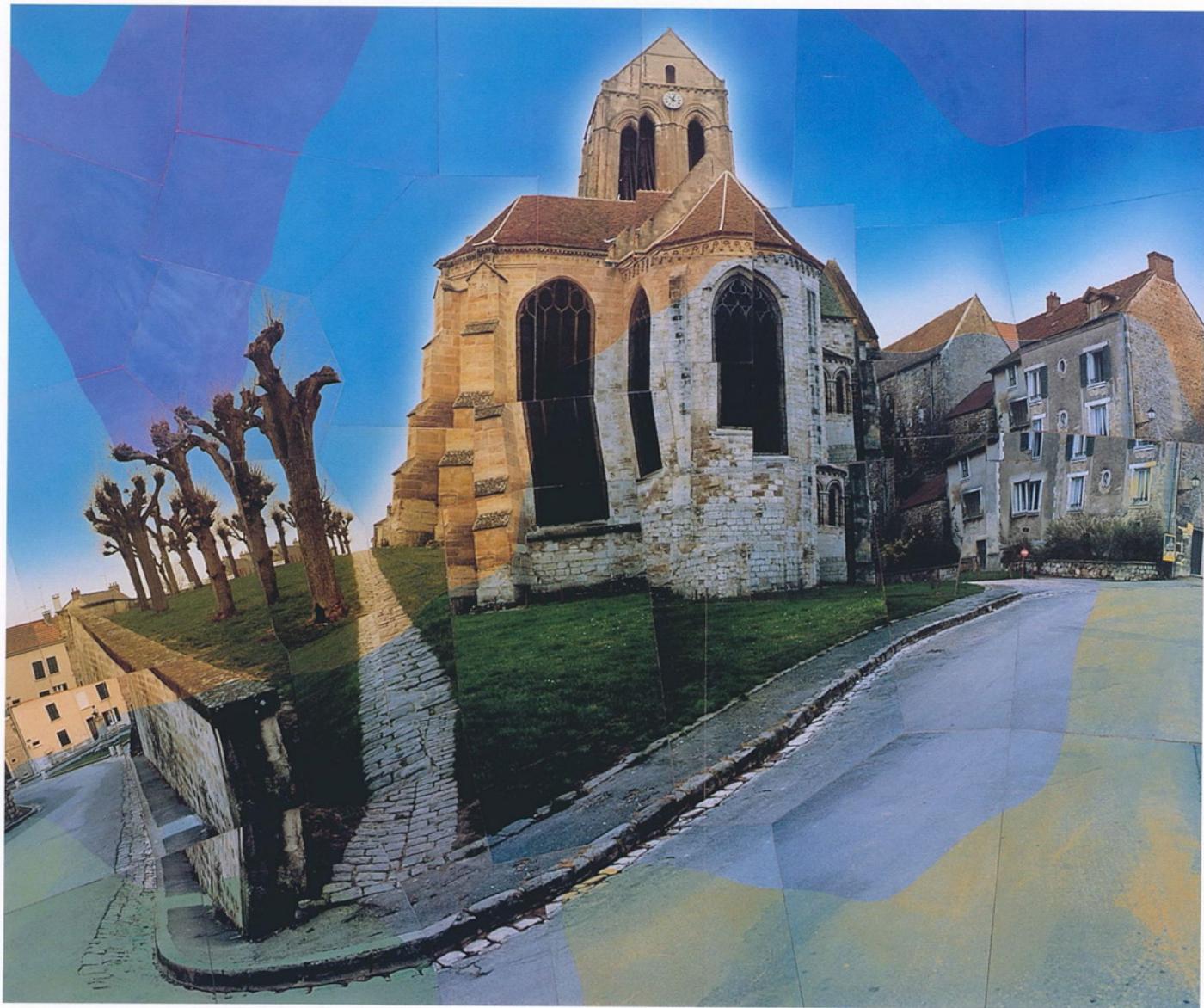


●特選／工芸 白い風舞い……山口 和子

空山新雨後。天氣晚來秋。
遙看雲木秀。初疑路不通。
清流轉相映。一望道無踪。
牧童遙指處。疑是杏林東。
更寂寥。以及牧童。世事還相似。
深宿晨林下。焚香臥聽風。
席間芳意盡。衣首映石壁。再暮裏。
迷明發。更覺坐昧謝桃源。
人老江復未覩。

徐陵

●特選／書 王維詩……鎌田 格処



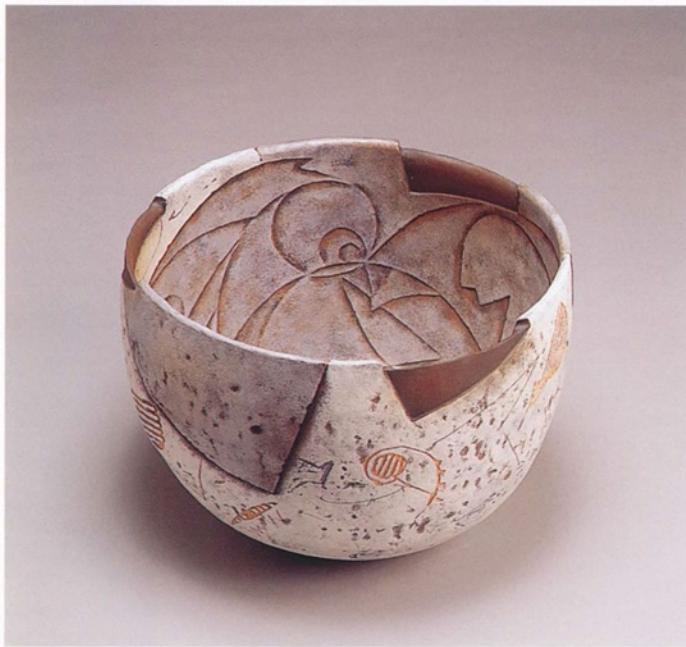
●特選／写真 オーヴェルの教会……平井 和穂



●特別奨励賞／工芸 乾漆溜塗喰籠「きく」……中村 良哉



●特別奨励賞／工芸 鏡の中の旋律—演奏、鑑賞……奥井 朝子



●特別奨励賞／工芸 彩泥鉢……人見 啓一

秋雨、年の落葉
萬葉の歌也、秋の
紅葉、秋の音
日暮れ
書 晚夏……野口 靖美

靖美

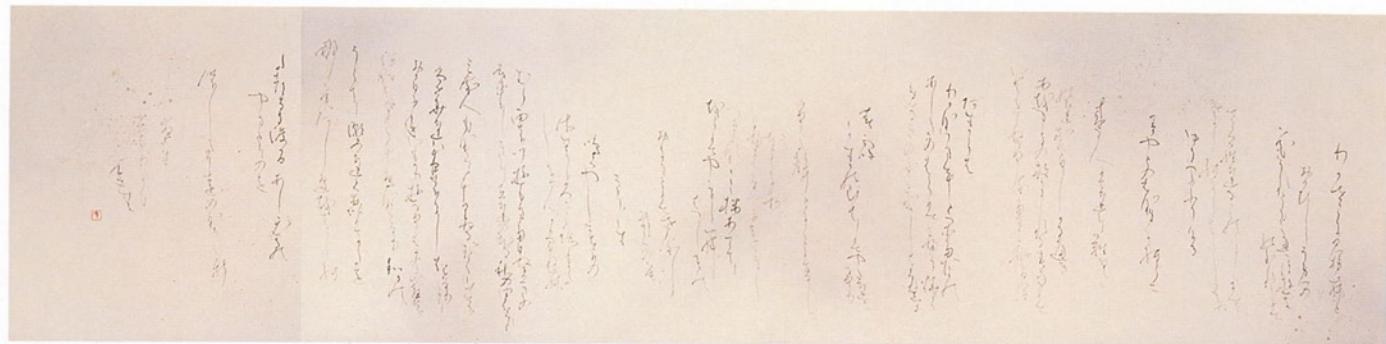
●特別奨励賞／書 晚夏……野口 靖美



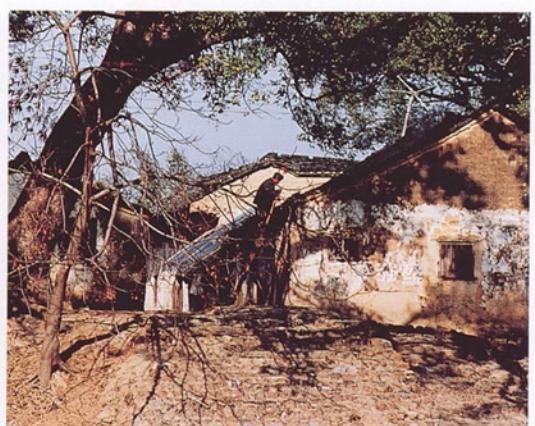
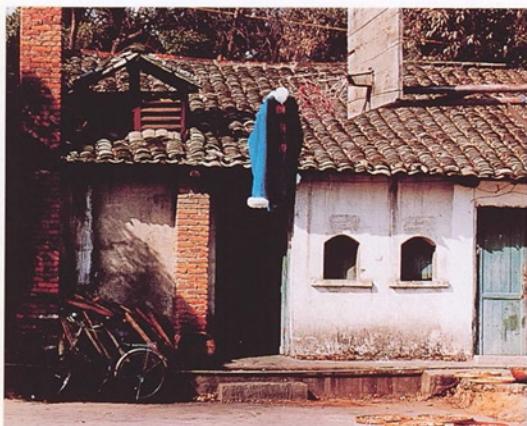
●特別獎勵賞／書 李白詩 尋雍尊師隱居……春山 右濤



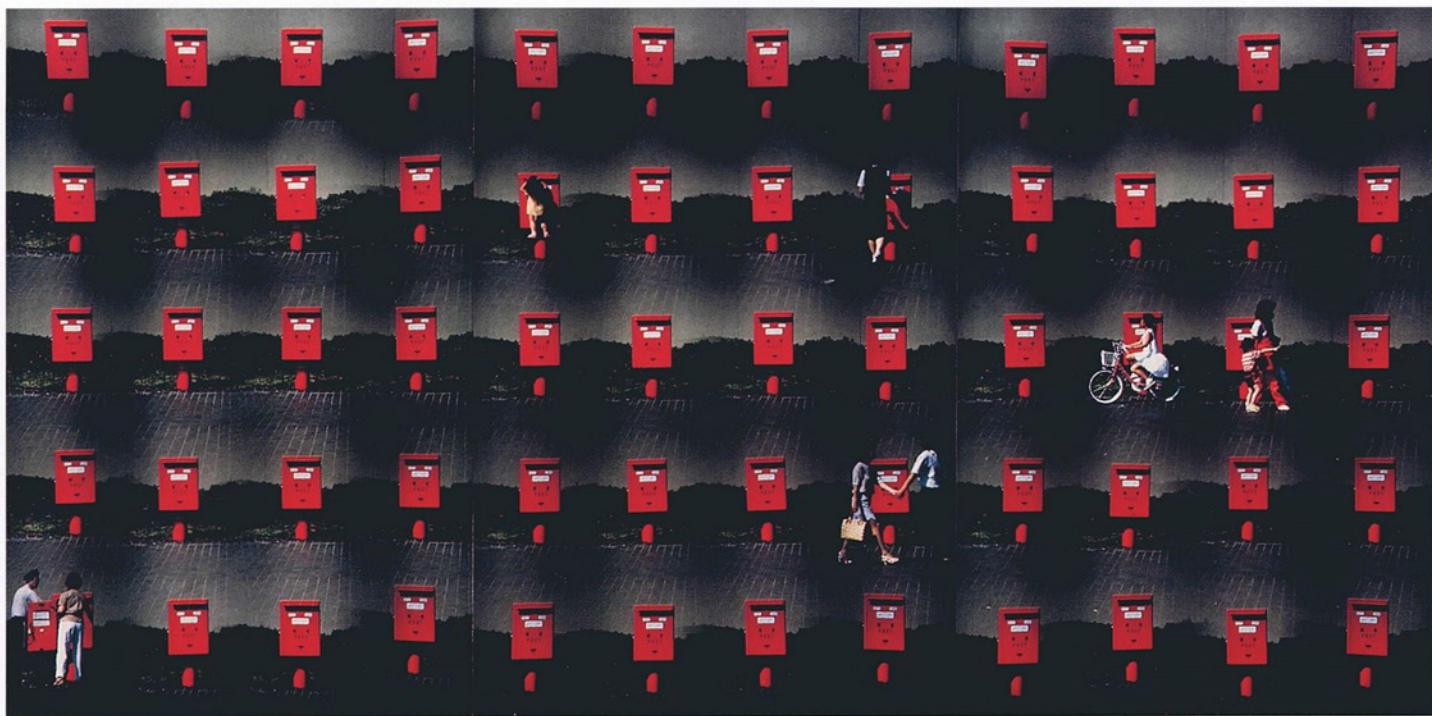
●特別獎勵賞／写真 孤翔……古谷 久夫



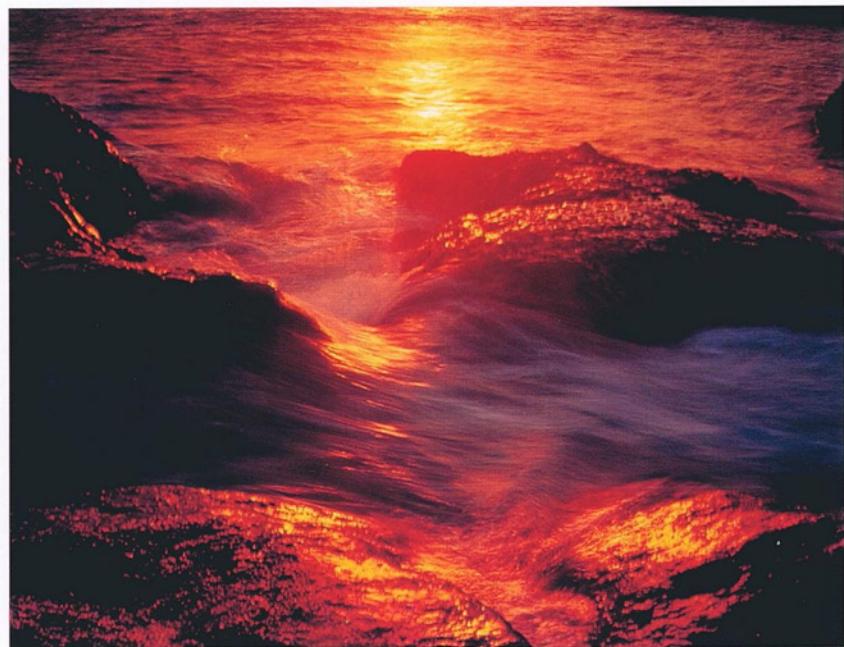
●特別奨励賞／書 わがせこに……大江喜 桂華



●特別奨励賞／写真 チワン族の村1993……臼井 孝



●特別奨励賞／写真 平日のダイヤグラム……矢花 一弘



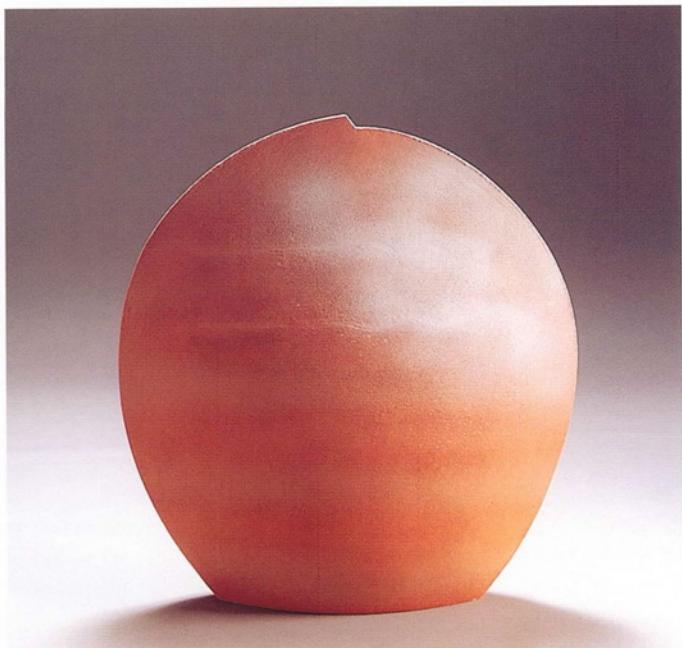
●特別奨励賞／写真 夕照……渡部 義範



●美術奨学会賞／工芸 野路の花……杉山 雅子



●美術奨学会賞／工芸 ウエーヴ (I)……東野 祥示



●美術獎学会賞／工芸 サウンド……相原 弥

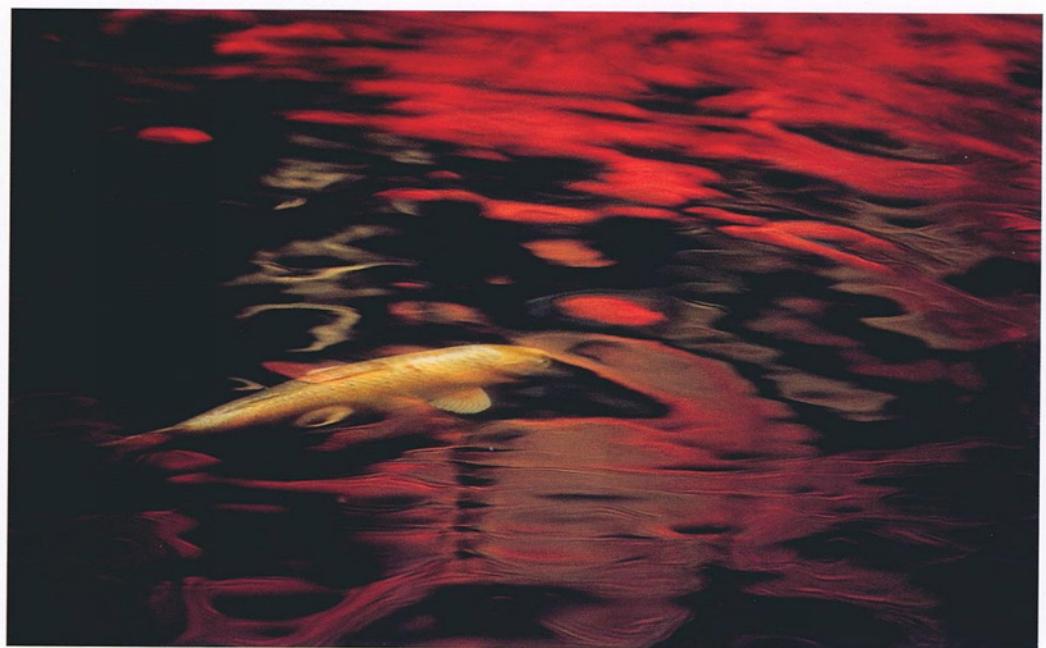


●美術獎学会賞／書 月光の歌二首……沓掛 和絵

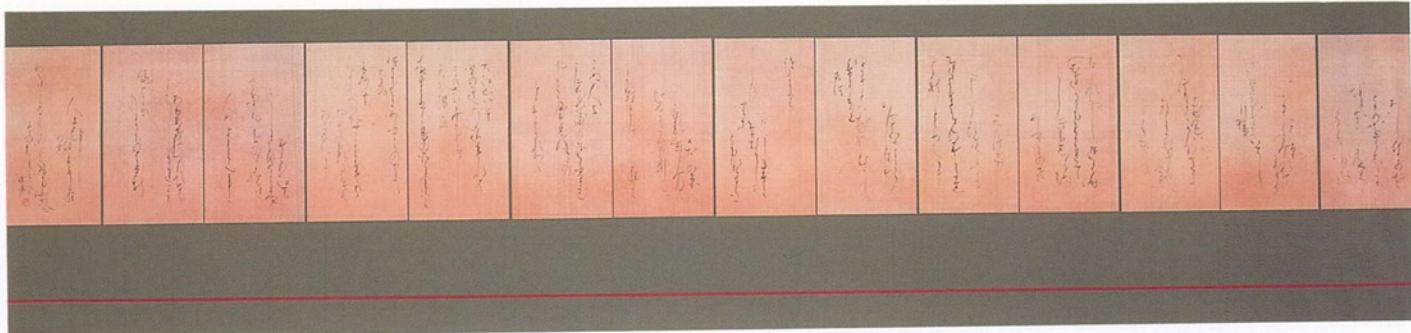


王維詩 耿翠書

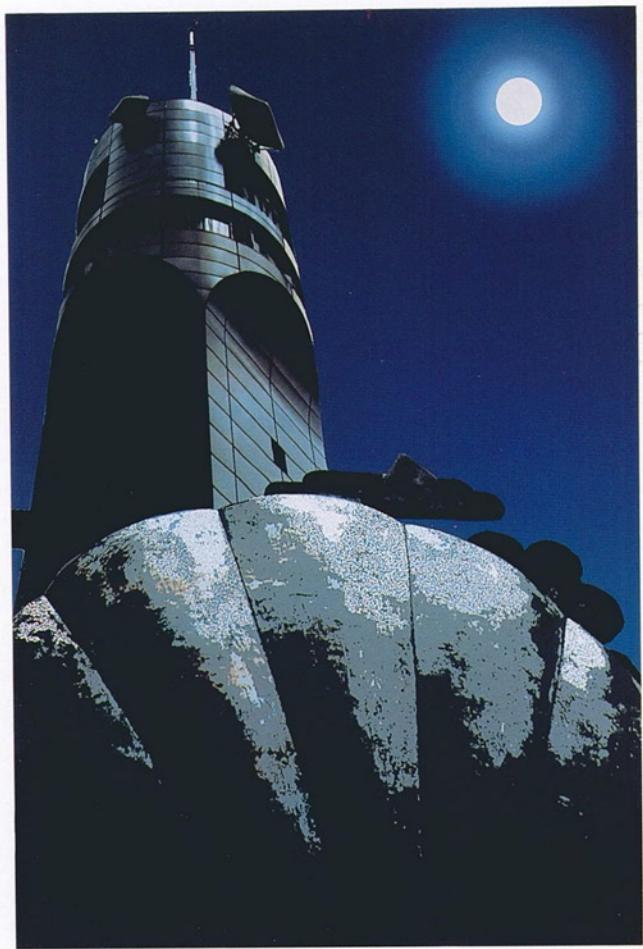
●美術獎学会賞／書 王維詩……深松 耿翠



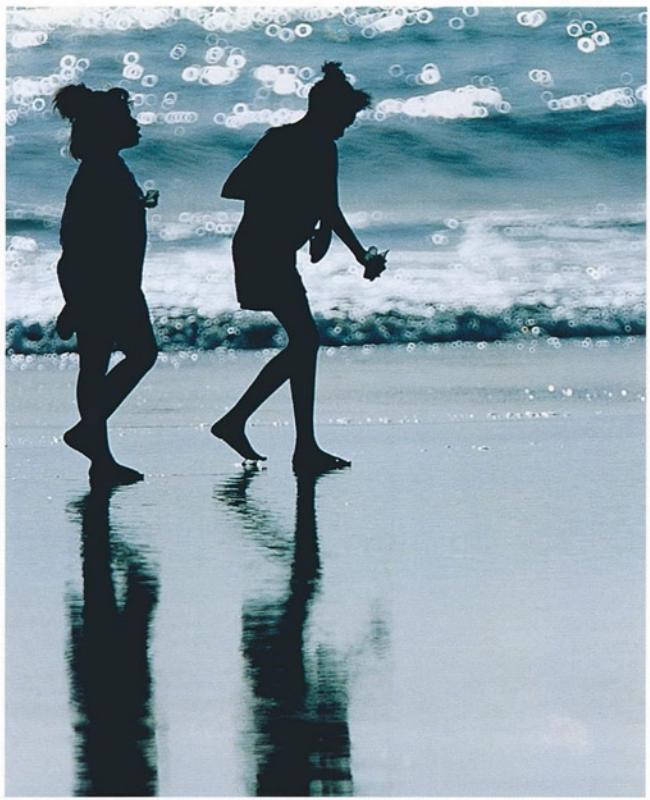
●美術獎学会賞／写真 波動……花崎 宏平



●美術獎学会賞／書 百人一首……岡田 珠美



●美術獎学会賞／写真 青のファンタジイ……高木 英明



●美術獎学会賞／写真 BEST FRIENDS……上石 寿美雄



●美術獎学会賞／写真 たそがれのマドレイ(インド) ……君田 淳一

受賞作品目録 [工芸、書、写真 部門]

大 賞	平野 朱美	工芸『電解ザウルス』	東京都大田区
準 大 賞	横山 芳穎	書『王維詩 桃源行』	横浜市
準 大 賞	川田 良江	写真『青春ラブソディー(湘南海岸)』(3枚組)	茅ヶ崎市
特 選	山口 和子	工芸『白い風舞い』	横浜市
特 選	鎌田 栄処	書『王維詩』	横浜市
特 選	平井 和穂	写真『オーヴェルの教会』	藤沢市
特別奨励賞	中村 良哉	工芸『乾漆溜塗喰籠「きく」』	横浜市
特別奨励賞	奥井 朝子	工芸『鏡の中の旋律—演奏,鑑賞』	二宮町
特別奨励賞	人見 啓一	工芸『彩泥鉢』	茅ヶ崎市
特別奨励賞	野口 靖美	書『晩夏』	横浜市
特別奨励賞	春山 右濤	書『李白詩 尋雍尊師隱居』	鎌倉市
特別奨励賞	大江喜桂華	書『わがせこに』	横浜市
特別奨励賞	古谷 久夫	写真『孤翔』	大和市
特別奨励賞	臼井 孝	写真『チワン族の村1993』	横浜市
特別奨励賞	矢花 一弘	写真『平日のダイヤグラム』	横浜市
特別奨励賞	渡部 義範	写真『夕照』	横浜市
美術奨学会賞	杉山 雅子	工芸『野路の花』	横浜市
美術奨学会賞	東野 祥示	工芸『ウェーヴ (I)』	静岡県熱海市

- 美術奨学会賞 相原 弥 工芸『サウンド』 横浜市
- 美術奨学会賞 鮎掛和絵 書『月光の歌二首』 横須賀市
- 美術奨学会賞 深松耿翠 書『王維詩』 伊勢原市
- 美術奨学会賞 岡田珠美 書『百人一首』 藤沢市
- 美術奨学会賞 花崎宏平 写真『波動』 横須賀市
- 美術奨学会賞 高木英明 写真『青のファンタジイ』 横浜市
- 美術奨学会賞 上石寿美雄 写真『BEST FRIENDS』 大和市
- 美術奨学会賞 君田淳一 写真『たそがれのマドレイ(インド)』 横浜市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

〔工芸〕

- 鈴木義之「大鉢組」
小野塚久記「葆光釉練上花器」
関口正美「優愁」
金子清「鉄釉白掛刻線文皿」
出縄高昭「大樹」
山田秀雄「面容」
松園裕「千鳥香炉青磁」
石川くるみ「Drop」
馬上知加子「雅(みやび) II」
高橋あづま「祭」
靄井悦子「型染遊々」
小林牧牛「野の仏」
村田五郎「黄瀬戸鉢」
大丸洋子「海底への誘い」
青木哲「練上げ皿「衆芳」」
山下あけみ「風車」
島幸子「憧憬IV」
新山政子「吹雪棗(夕顔)」
林保美「乾漆朱塗盛器「トリプル・ハーモニイ」」
和田美奈子「型染着物梅」
梅田千晶「モノ入れ」
斎藤三枝子「乾漆鉢」
井手三郎「絆」
加古佐知子「さくら」
蓮沼芳子「シンビジューム」
近野久子「石の譜」
高棹次世「心の部屋」
沼野真紀「飛悠」
網野美礼「懿親」
堀久代「Midnight」
中村昌子「毛被硝子組鉢」
井上明美「鍾る」
樋代則子「ビードロ釉組ドラ鉢」
雨宮裕子「野草染木箱」
小林千峰「五段引出(秋七草)」
吉川創雲「(浅鉢)回遊」
土川正江「夏みかん」
大柳俊子「ぶどう長方鉢」
飯島克己「松竹梅」
岩崎忠夫「乾漆十二稜変塗盛器」
今井ユキ「風雅」
小谷ハルノ「茜空」
島村信一「生動」
村主武「三ツ足日本アルプス連山絵壺」
竹内宏「灰被壺」
佐藤京子「色・芽・基」
糸井惣四郎「舞」
角村治城「連珠V文壺」
宮澤若菜「SEAPIECE」
大野恵一「油滴天目釉木の葉文茶碗」
橋口義昭「宙吹硝子森の湖水」
岡上登「花台」
桑原平治「掛分角組皿」
河端直子「伊羅保釉組鉢(6)」
天野雅史「木地呂大壺」
大谷元夫「釉裏紅六角紋上絵皿」
谷内道子「きんぼうげ」
釣敬子「切子鉢」
松本元久「螺鈿黒檀小箱」
石田暉忠「方形の函」
岡達夫「鋳銀杖頭「水辺」」
波多野安希「光の大河」
鈴木亘「練上壺」
羽生恵子「変容する布」

金子将之『練上げ花器「水曲」』
保田百合子『あわせ』
佐々木信子『北の夜空(藍染) No.2』
二見祥明『盒付壺池硯』
木村隆男『備前水屋壺』
多々内都子『悠揚朝韻図』
多賀ちか『波わらし』
足立治男『偏壺“風”』
坂本一馬『薰風』
水越繁『集積 その秋』
栗林茂子『西芳寺』
松井順子『夢の森へ』
北垣幾子『初冬』
宮原二三子『刺し子 はんてん』
福岡幸基『白牡丹』
山内幸代『銀研ぎ出し呂色皿「はなのかたち」』
堀口成依『羽搏く No.I』
内田正男『焼締三耳壺』
吉川愛里『灰釉流文壺』
竹神修美『高原』
栗原恒子『風のうた』
谷田部君江『憧憬』
中島弥平『粉引窯変角文皿』
太田國枝『流』
太田美佐枝『爽秋』
松原夫佐子『吳須象嵌 藍の花 組皿』
五味彦一『象嵌深鉢』
後藤寿美恵『夢幻』
森崎芙美子『六歌撰会席膳』
高原光哉『曲(KYOKU)』
久保木豊『湯のみ(手ひねり)』
家住利男『表面』

家住利男『水の器』
伊藤多喜子『風紋』
石橋伊久子『妖精の鏡』
宇田川佐由子『閃』
浜本洋子『夜明け前』
横田敦『多面壺』
山口浩二『青内被泡玉台花器』
福川廣美『化粧 角皿』
永田節子『実りの秋』
小野寺和子『藤(日本刺繡)着物』
東野祥示『ウェーヴ (2)』
志田美智子『硝子切子鉢』
村井洋美『幻想』
加島鈴子『渦潮』
和田富岳『花器(和)』
山本美世子『輪』
柴田近子『響 I』
大原乾資『線と円と三角』
島倉朝子『色被硝子花瓶「パンジー」』
安井海『織部綠青壺』
南雲龍比古『記』
照沼信行『亜空間』
大林淳一郎『凜雅(生と死)』
中田文『波毛目四方釜』
山下敦子『野辺の守り』

[書]

綿貫吉野『西條八十の詩 銀杏』
指旗登美『冬の明け方 中原中也』
日守菜穂子『佐々木有風の句』
穂坂美代子『親不知』田中冬二の詩』
佐野幸代『高村光太郎の詩「象の銀行」』
小林千幸『旅人かえらず』
大木銀子『ふるさと』
大木明子『夏目漱石の句』
志村寿美恵『鳴く虫』
山士家啓子『天柱山麓の時』
名畑美峰『静かに歩む』
千葉清子『秋元零折の句』
和田里枝『島崎藤村の秋風の歌』
末永幸枝『大和田建樹の散歩』
東條順子『相思』
堤智子『石の花』
石井富代『一輪』
問馬敬竹『流氷』
鷺見奈保子『太田水穂のうた』
馬場虹苑『大矢惇夫の詩』
廣川心齋『寺西金一の歌』
梅田昌葉『中原中也の歌 末黒野より』
上野春海『三好達治の詩 鶯啼く』
深川静燕『矢澤宰の詩』
深浦桂子『佐藤春夫の詩 柿もみぢより』
井上信子『与謝野晶子の詩』
八木香葉『北原白秋の詩 思い出』
八木静香『暁の誕生』
茂又武子『大空と大地の中で』
及川節子『島崎藤村詩 夏草より』
丁野政之助『常磐樹』
岸茂子『水の匂い』

須藤欣華『木下夕爾の詩 晩夏』
齋藤湖石『眞昼の休息』
滝澤秀石『嵯峨野の里』
眞鍋光子『石榴』
桂田悦子『有明海の思ひ出』
 笹沼積子『花』
野田容子『青蛙』
黒澤和子『白露』
戸ヶ崎光子『夏山に』
佐藤曜香『杜甫詩 兖州の城樓に登る』
饗庭雅翠『良寛のうた』
渋谷松聲『和新秋即事(陸龜蒙)』
中村蒼汀『蘇東坡詩』
小川如泉『白居易詩』
赤石蕙州『信濃なる千曲の川…他一首』
簗島湘映『石川啄木の歌』
中澤碧怜『臨針切』
松田松逕『和歌一首 みる人もなくて』
布野玉桃『和歌三首』
立木紫絢『和歌二首』
川手敬湖『鳥のねものどけき山の朝あけに霞の色は春めきにけり』
竹田晃堂『金槐和歌集より十首』
山口桐里『大伴家持歌』
萩原華徑『万葉集より和歌三首』
玉崎葉光『瓜食めば』
入江正洲『劉禹錫詩 秋日送客至潛水驛』
亀井桂華『大夫眺望』
熊澤艸洲『送秘書晁監還日本国』
平田十臥『李白詩』
尾家瓈嵒『許渾詩』
浜岡見雲『劉基詩』
浅羽紀代子『曹子桓詞』

藤 谷 桂 雪『白楽天詩』
江 口 龍 路『渡湘江』
岡 崎 香 芳『高青邱詩』
小 林 清 坡『僧皎然詩二詩』
黒 田 沙 嵩『王維詩』
加 福 しづゑ『金槐和歌集』
新 井 青 翟『蘇東坡詩』
平 田 由 江『高適詩』
阿 部 なほみ『登樓(杜甫)』
西 木 梅 子『あすか川』
佐 藤 礼 子『関戸本古今集』
橋 本 芳 雪『秋の夜は』
丸 山 美 津 江『しら雲を』
中 川 星 華『秋の野』
松 永 瑞 子『み山路や』
木 多 良 子『秋の山』
仁 上 小 葉『寒山詩(五言絶句)「今日巖前坐、坐久烟雲収…」』
菅 原 象 雲『魏下蘭座右銘』
関 口 青 霞『たれをかも』
村 井 純 子『よの中に』
佐 藤 青 香『かぞふれば』
服 部 青 昌『世の中は』
芹 澤 八 重 子『秋きぬと』
大 橋 啓 世『百人一首より』
伊 藤 青 光『わが宿』
山 ノ 井 青 噠『秋来ぬと』
吉 本 寿 峰『五言律詩 対琴待月』
福 井 幽 紅『送友人(李白)』
座 間 幽 洋『釋五岳詩 偶成』
杉 山 幽 翠『楊炯詩』
鈴 木 玉 葉『渡揚子江』
西 永 裕 子『常建詩』

芹 田 竹 溪『鑒誠短句 光風霽月』
相 澤 麗 琴『杜甫詩』
片 山 静 苑『李白詩』
松 本 亘 正『王維詩』
長 尾 雪 永『万葉集の歌一首』
岡 本 光 草『朝愈秋懷詩十一首其一』
伊 藤 子 扇『万葉集』
内 藤 慧 華『宮中行楽詩』
齋 藤 泥 石『七言二句』
小 池 青 芳『ほととぎす』
平 間 愛 子『御物和漢朗詠集』
荒 砂 典 子『花いばら』
河 又 世 津 子『ますらをは』
塩 沢 鶩 州『万葉集』
和 気 清 堂『王維五言古詩』
神 原 秋 翠『古今和歌集 秋の歌より五首』
高 橋 芳 声『晶子のうた一首』
小 林 廣 洲『柳』
山 本 花 聲『唐詩』
鈴 木 香 旗『良寛詩』
野 頭 莊 雲『杜甫詩』
若 林 花 泉『唐詩 孟門行』
北 浦 豊 舟『唐詩 南磽中題』
中 山 愛 泉『張九齡詩』
小 山 莊 雪『奉和幸韋嗣立山莊應制』
鈴 木 莊 鶴『西山』
神 藤 莊 松『張謂詩』
田 所 寿 泉『和姚絵事寓直之作』
佐 藤 右 松『早発始興江口至虛氏村作』
池 田 莊 春『人日寄杜二拾遺』
木 下 淑 泉『湖中対酒作』
門 倉 松 扇『和許給事直夜簡諸公』

田村秀亭 『陪張丞相自松滋江東泊渚宮』
加藤翠郷 『唐庚 古硯銘』
柴田李笙 『唐詩』
宮崎霞瑤 『岑參詩』
永田棹舟 『李白詩』
貴納萬魅 『登高(杜甫詩)』
早瀬香谷 『李白詩』
柿本山秋 『寒山詩』
池上好子 『過ぎし夏』
佐藤俊恵 『はるのその』
浅間静江 『短歌一首(吉井勇の歌)』
八十川悦子 『夏の夜は… その他和歌四首』
高橋彩秀 『露草の』
進藤紀子 『蘇東坡詩』
上田尤子 『ふくからに…』
宮川昌翠 『木簡(臨書)』
兵部彩翔 『李商隱詩』
原田美泉 『沈佺期詩』
佐竹花泉 『李頌詩』
廣町茜泉 『陳与義詩』
辻巻蘭泉 『王維詩』
柴岡明洞 『王安石詩』
谷口春泉 『蘇東坡詩』
尾崎靜鳳 『杜甫詩』
菅野堯処 『孫蕡詩』
楠琴処 『高適詩 塞上聞吹笛(三首)』
佐藤柚処 『明詩二首』
上野博堂 『李嘉祐詩』
滝口伸葉 『曹植詩贈丁儀』
奥田栖芳 『景池詩』
和田静月 『杜甫詩』
門田可寿 『春宵自遺』

木村晴雲 『杜甫詩』
元松松茜 『送友人』
井澤洋高 『秋夜獨坐』
横山蘭葉 『高啓詩三首』
石井右千 『李白詩』
杉浦右花 『李白詩』
小川右佳 『李白詩』
長谷川右扇 『李白詩』
岩土右紀 『李白詩』
松尾右翠 『黃山谷詩』
東山右徹 『李白詩』
菱田右紫 『黃山谷詩』
菊島右雪 『李白詩』
中溝右暉 『李賀詩』
池瀧右耀 『王維詩』
安部梅陽 『韓愈詩』
池田青柳 『白樂天詩』
木須青苑 『李白詩』
鈴木青秀 『觀獵』
天形青遙 『杜甫詩』
秋元恵子 『桜花』
西尾登喜子 『わが里に』
喜瀬美佐子 『百人一首』
脇本光子 『西本願寺36人集 貫之集(上)』
林陽童 『関戸本古今集』
森俊行 『山家集より 夏歌』
貝原積眞 『賈島詩』
浦谷紫陽 『李白詩』
河合伸泉 『高青邱詩』
島田幸舟 『富士の高嶺』
川添紅琇 『李白詩 長干行』
神東栄春 『王維詩 藍田山石門精舍』
三原和子 『花草の原』

[写真]

- 高橋 礼子『華厳ノ滝』
高橋 奨『時間一杯』
岡田 貢『大道芸人』(2枚組)
村上吉正『新宿ストリート』
中島義範『日本海』(2枚組)
戸塚吉久『祭礼の日』(3枚組)
生原正克『暁の流雲』
尾原芳子『冷夏』(2枚組)
櫻木 進『聖なる大地(マウントオルガ)』(3枚組)
上原公平『いのち誕生』(3枚組)
堀坂和夫『生活への道』(3枚組)
矢澤晴夫『深秋』(3枚組)
中島高美『ヴェネチアの華』(2枚組)
鈴木三郎『祈願成就』
安井博道『白樺樹林』
澤田秀雄『連帶』
亀井貫司『雪線幻想』
村山 章『城ヶ島夕景』
山田 実『逆説的 桂林の風光(中国)』
橋本春男『夜明けの茜雲』
藤井 健『赤いコンテナー』
静文雄『天空の果実』
鈴木重久『エギーユ=デュ=ジェアン峰』
長根直幸『断面』(2枚組)
内田幸夫『港 ファンタジー』
小澤奉信『富士の彩』
本間英夫『尾瀬・光彩陸離』(3枚組)
持田 光『ある光景』
朝倉俊平『扇涼待夢』
高橋 弘『荒行』(2枚組)
金森大輔『標識と私』
榎原俊寿『光芒』
- 越川敏子『エジプトの市場』(3枚組)
山口昭弘『日本の彩』(3枚組)
長橋達也『陶酔』
矢田哲彦『交歓』
中林秀之『おだやかな午後』
青木保親『春爛漫』
伊藤諒子『あじさいの夢』(3枚組)
笹尾佳夫『ほうすき』
吉田陽子『オーロラの詩』
佐治利雄『躍動する都市 MM21』
津田祥夫『あのね、おじいちゃん』
三橋幸子『大草原の旅(モンゴル)』
和田幸夫『藍より淡く』
さとう陽子『日常一張力(2)』
牛木 実『幻影』
中丸英夫『STILL LIFE』(2枚組)
中川英治『暮れゆく黒部五郎岳』

審査経過

工芸

●搬入点数262点(233人) ●入選点数129点(127人)

今年度の工芸部門は応募数が前年比36点増えた。来年30周年を迎える高まりであるなら喜ばしい限りである。

プロ偏重でなく、広く県民の方々が参加出来る開けた場でありたいと念じてきた工芸部門は、近年にないレベルの高い作品が集まった。審査員一同の感想である。

長時間にわたり慎重審査の結果、129点を入選とした。出品数が増えたことであり、熱意に応え入選者も増やした。熱心に二点、三点応募した人には、それなりの配慮もしたが、複数展示するには疑問のものは遠慮願った。一方、多く出品しながら成果の上がらなかつた人々には、再度丁寧な見直しをした。

今回はガラス工芸の著しい進出と、新しい工芸素材を駆使したものなど特筆するが、もう一步の消化が望まれる。ただ、年々新しい素材が出てくることを当然とする工芸であり、更なる挑戦を期待している。

いまさら申すまでもなく、一党一派に偏した作風をよしとするものではない。審査員も（表現には迷うが）前衛、中道、保守と適切に配している。出品者は模倣を排し、自己の個性を生かし、のびのび制作したもので応募して頂きたい。ただし、制作意図が明確なことは当然であり、言語明晰、意味明瞭なものを求めたい。（それなりの技術の高まりも希望している）

受賞作品を紹介すると、見事、大賞に輝いた染色の平野朱美さん「電解ザウルス」は、天性のカラリストで、その上きめの細かい染めと大胆明解な構図、しゃれた寓意が分りやすく表現されており、文句なしの受賞であった。これまで県美術展に熱心に意欲的な作品をよせていた若い女性である。大成を期待したい。特選、漆芸の山口和子さん「白い風舞い」は、伝統的な技術を駆使し、

作者の内面の心象風景—構築された栄華の風化、歴史の必然を見つめているのだろうか。難解なモチーフに取り組み、大賞を競つたが、いま一つ切れ味が必要だったのかもしれない。

特別奨励賞 漆芸の中村良哉さん「乾漆溜塗喰籠『きく』」は、伝統的な高度の技術を駆使し、難しい形態を危げなく表現している。塗りも良い。ただ蓋の中心部の真珠玉には意見が別れた。七宝の奥井朝子さん「鏡の中の旋律—演奏、鑑賞」は、七宝の持つ色彩の華やかさを改めて見直した。自由闊達、伸びのびした描線の妙があり、色彩の心地よいハーモニーと相まって、楽しい音、音楽が聞こえてくる。まだ若い学生さんとか、今後が楽しみである。陶芸の人見啓一さん「彩泥鉢」、受賞歴のあるベテラン作家。遊び心を心得た実に楽しい模様を刻み込み、色合い、口造りにも一工夫あり、焼成も見事な作品である。細かいことだが、縦、横の比率に問題はなかったか。

美術奨学会賞 染色の杉山雅子さん「野路の花」は、伝統的な作風、草花をあしらった着物で、爽やかな仕上りで心地よかった。陶芸の東野祥示さん「ウェーヴ(I)」は、ろくろを駆使した練達の作品で、重厚、かつ風格がある。色彩がやや暗く重すぎたか。陶芸の相原弥さん「サウンド」、この県美術展に楽しんで作り、出品する好例。10数回の入選を重ねた熱意と、これだけの大作を焼成した習熟度が評価された。この他にも惜しくも賞を逸した作品が沢山あった。今後を期待している。

ともあれ、大いに楽しんで作って頂きたいし、また、観る側も楽しませて頂きたい。来年は30周年記念を迎えるが、意義ある展覧会にしたいものである。

永井 鐵太郎

書

●搬入点数281点(281人) ●入選点数201点(201人)

書部門の出品数は例年多少の増減はあっても、大体同じくらいの出品数で大差ないのが特徴である。毎回真摯な出品者の意欲に對して、審査員は公平厳正に審査に当った。

漢字作品153点、かな作品72点、近代詩文書作品56点に分類される。ここ数年、漢字・かな両部門とも多字数作品の出品が増加しつつあるのが最近の特徴である。

漢字作品は、篆・隸・楷・行・草と各書体多様化して変化著しい。その表現方法が最近個性的になりつつあり、類型化が少なくなってきた。それだけ自己に目覚めた作風が出つつあるといえよう。一面技法的に見て、その過渡期の現れとして不安定な部分と、内面から突きあげる激情が乏しくなっているのは一時的現象であろうか。

かな作品は、從来平安朝時代の古筆の臨書が多かったが、今回は臨書から倣書へと進展しつつある作品が目立った。これが結実することによって新しい展開を見せてくれることであろう。

近代詩文書作品は、純白な用紙に濃墨で切れ味のよいタッチで書き上げた作品が多い。それが成功した作品は、より一層モダンで明るい雰囲気をかもし出しているが、やや未経験の人にはそれが失敗につながるところもある。

入賞作品のうち気のついた点について感想を述べる。

準大賞 横山芳穎 横展開 王維の詩を、十一字詰十九行に整然とまとめている。鍾繇風の古朴な作風ではあるが、タッチもきいていて明るい紙面が好感を呼んだ。

特選 鎌田格処 行書四行 色雅仙に淡々と書いている。所謂手馴れた安定感のある作家である。

特別奨励賞 野口靖美 田中冬二の詩をタテ二行にダイナミックに書き、切れ味のよい近代詩文的作風である。春山右満 草三行 大胆でありながら和潤さを失っていない。大江喜桂華 細字長巻 横展開にちらし少しの不安感もなくまとめている。

美術奨学会賞 岡田珠美 百人一首を横展開にまとめ、運筆の変化が、快いリズムに乗って墨色も見事である。沓掛和絵 月光の歌二首を一つの紙面にまとめて、大小肥瘦の変化も巧である。深松耿翠 王維の詩 筆のタッチがよくきき運筆に滋味も加えている。

殿村 藍田

写真

●搬入点数186点(98人) ●入選点数86点(59人)

準大賞「青春ラプソディー」川田良江は、汗と潮の匂いが青春の男女から発散して、湘南海岸の焰熱の姿態が見事に描写された。この作品は、全審査員の満票で推選された。むかし太陽族いま肉体派の神奈川県が誇る湘南の海を題材にして、ひと夏の青春譜を謳歌した。特選「オーヴェルの教会」平井和穂は、コラージュの作品である。多数の写真で騒擾効果を狙うのはもう古い。シュールとリアルを織りませた行き方が新鮮だ。写真貼付の技術が抜群である。

特別奨励賞「夕照」渡部義範は、朝焼夕焼の作品はもう見飽きた。この作品は、江の島の岩礁にあたった夕照である。この局所の落陽の美しさは、オリジナルな表現であった。「チワン族の村」臼井孝は、桂林の南の農村地帯の風景だが、中国の農村のマンマンディな長閑さをよく捉えた。「平日のダイヤグラム」矢花一弘の作品もコラージュである。郵便ポストの多数写真を貼付けて、漫画チックに表現した。郵便を投函する人が、もう一つユーモアだと、ナンセンス写真になったと思う。「孤翔」古谷久夫は、今回は野鳥の作品が多かった中で、この作品が優れていた。白鳥が一羽すっと飛んでいる姿態だが、なんともいえぬ味がある。

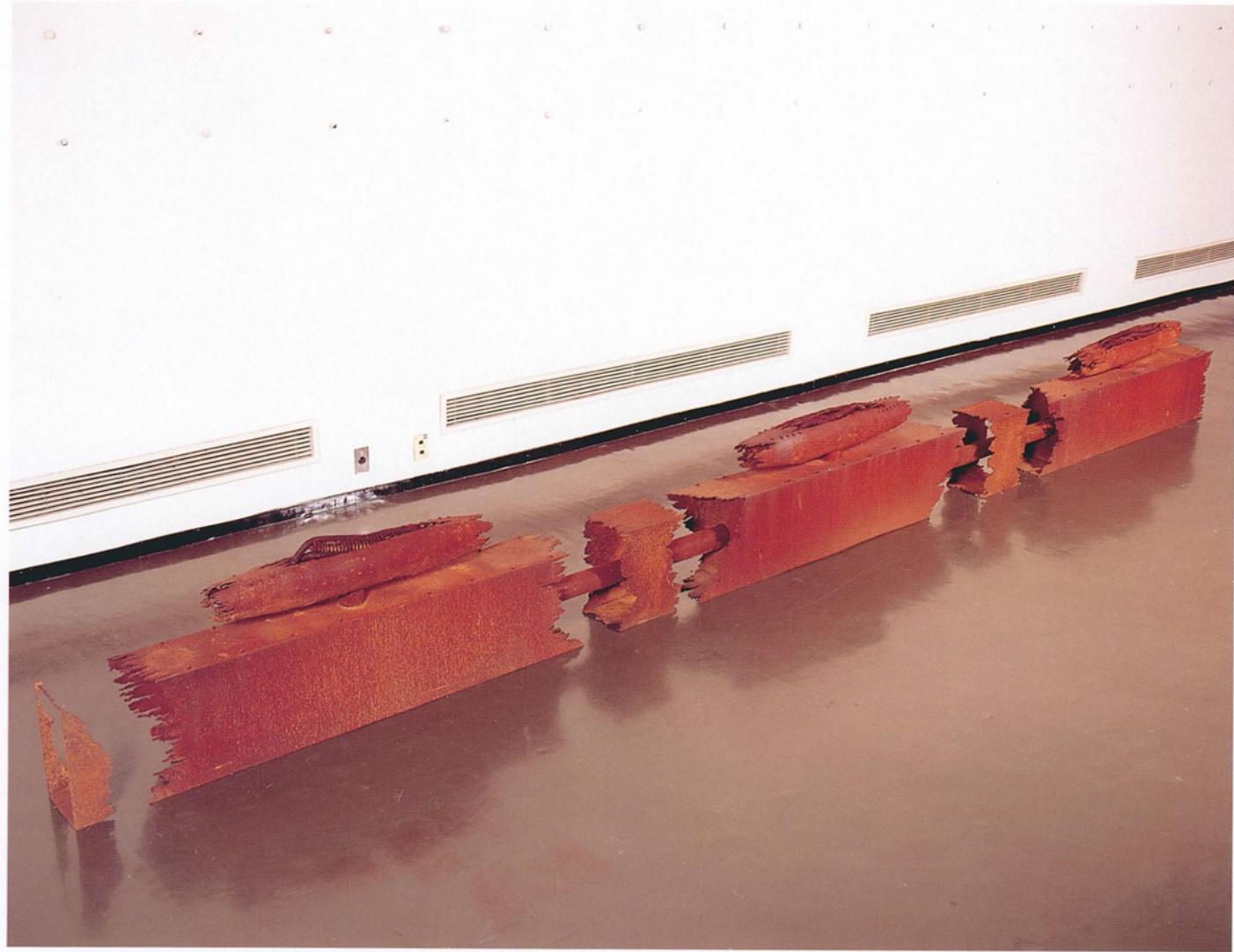
美術奨学会賞「青のファンタジイ」高木英明は、本牧シンボルタワーをポスタリゼーションしたもので、タワーの迫力がでた。今や新技法を見せるための技法では価値がない。この作品のように、新技法によって効果ができるモチーフを選択することが重要だ。「波動」花崎宏平は、京都の寺院の池に紅葉が投影した中で、鯉が一匹跳ねあがった瞬間を捉えたものだ。一瞬の面白さを狙うのが写真の特技だ。「たそがれのマドレイ」君田淳一は、夕景を逆光で撮った美しい風景だが、インドで農夫と水牛とくると、少しマンネリだ。「ベストフレンズ」上石寿美雄は、外国の渚のシルエット作品である。ベストフレンドを映像化することは難しい。しかし不可能ではない。二人の女性のいい一瞬を捉えればできる。

奥村 泰宏

2期展：日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形



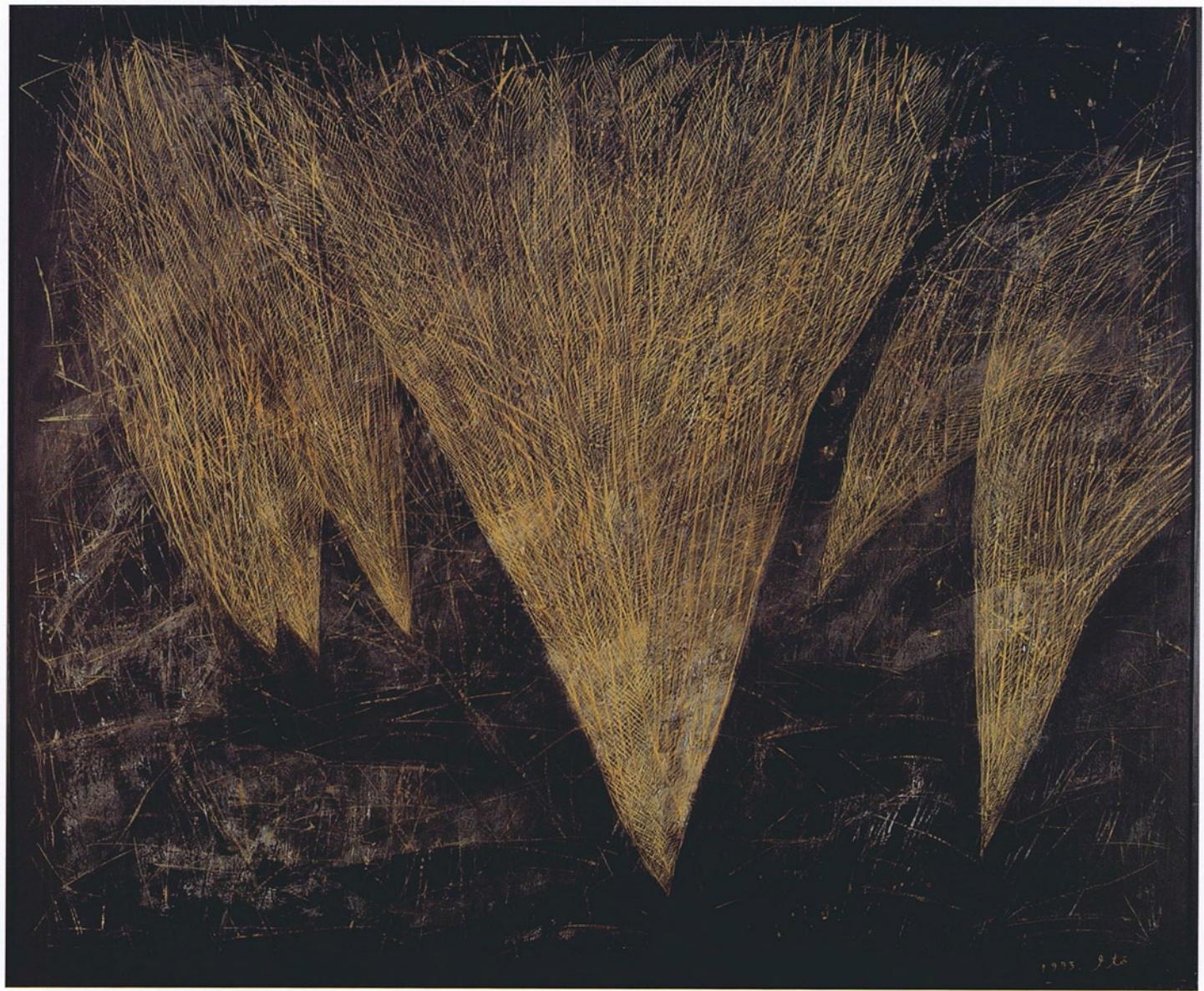
●大賞／日本画 チベットの娘……王 青



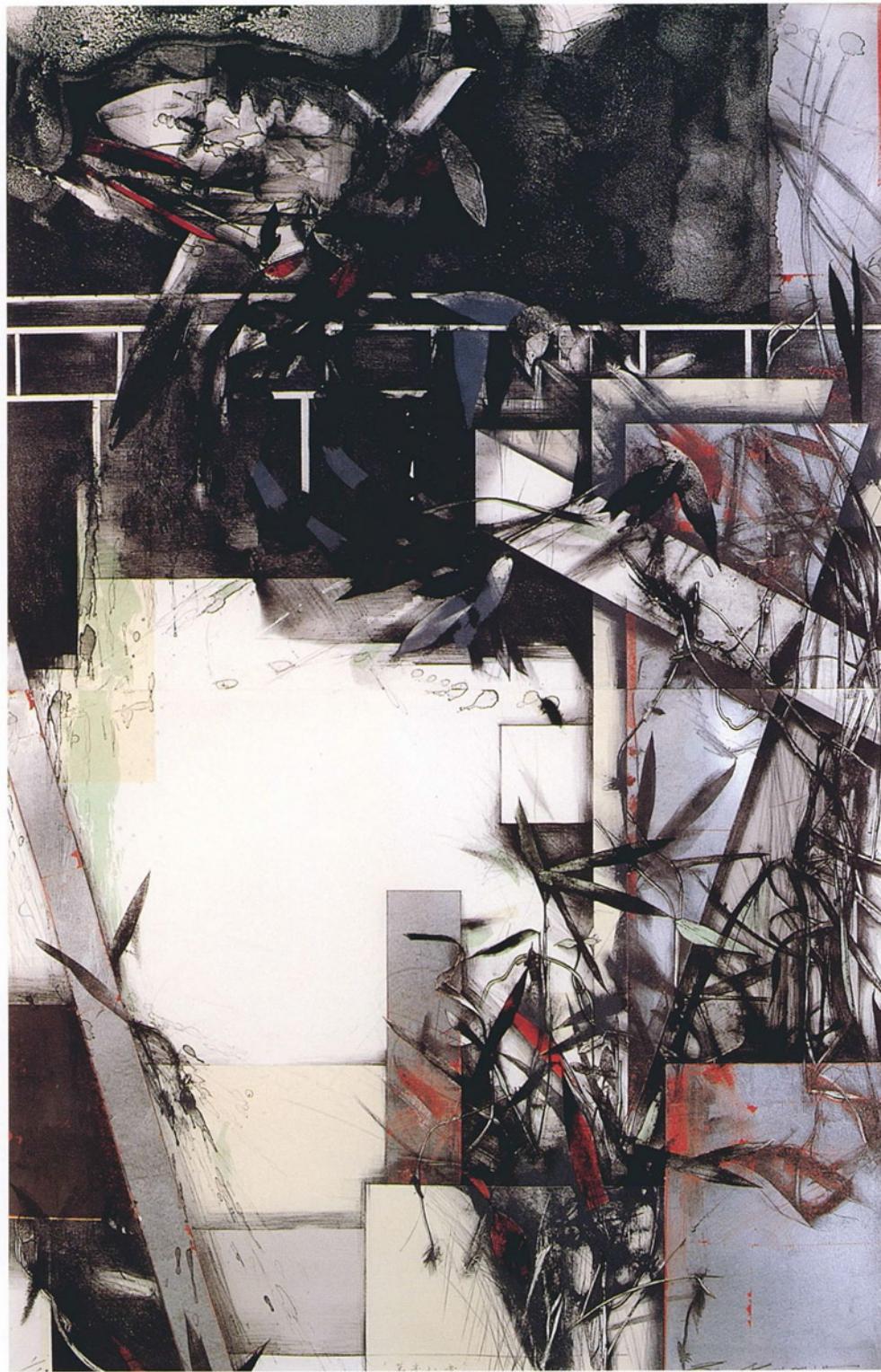
●準大賞／彫刻・立体造形 TIME CAPSULE……片岡 操



●特選／日本画 家族……大野 静子



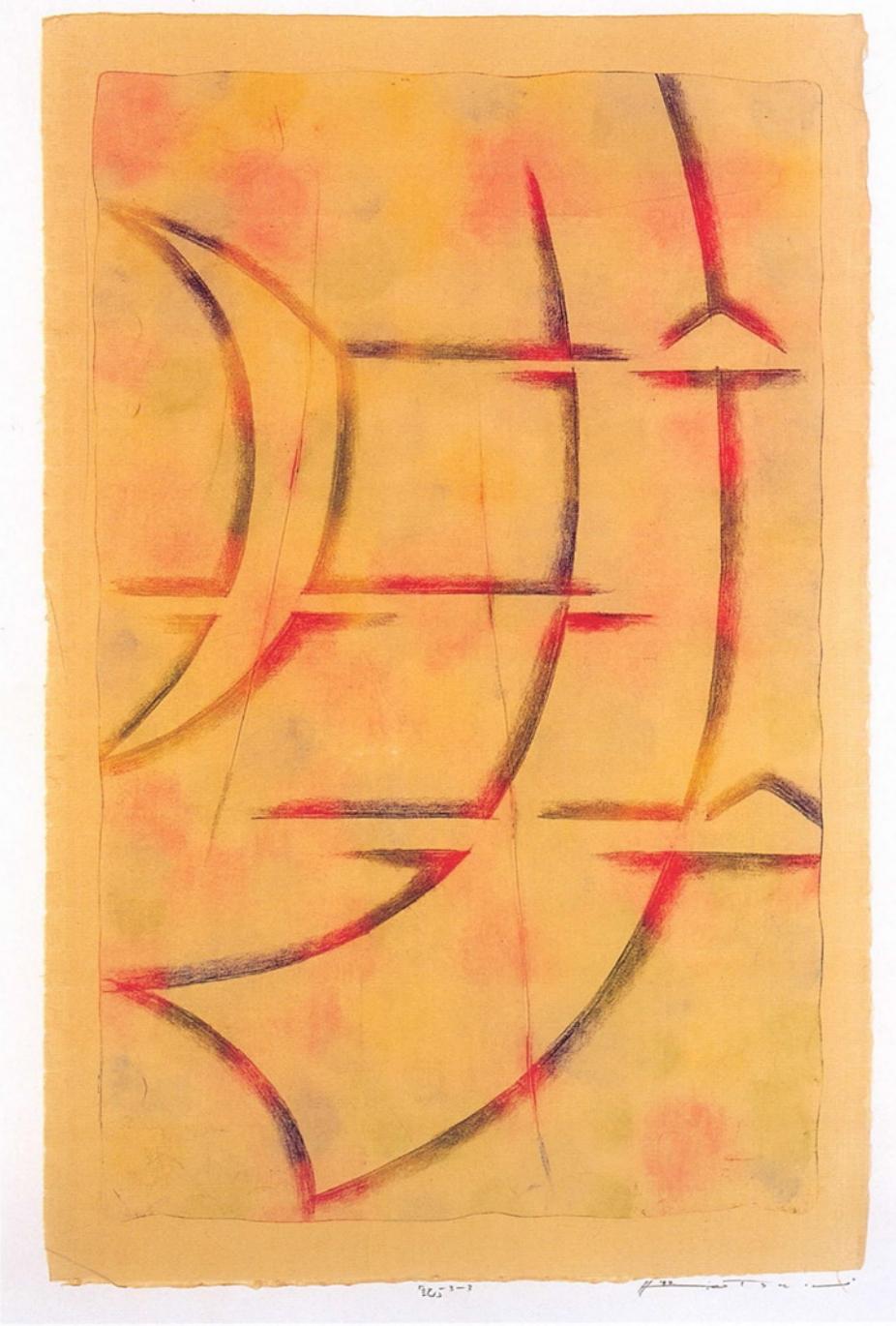
●特選／洋画「彼の故郷」へ I……伊藤 彰規



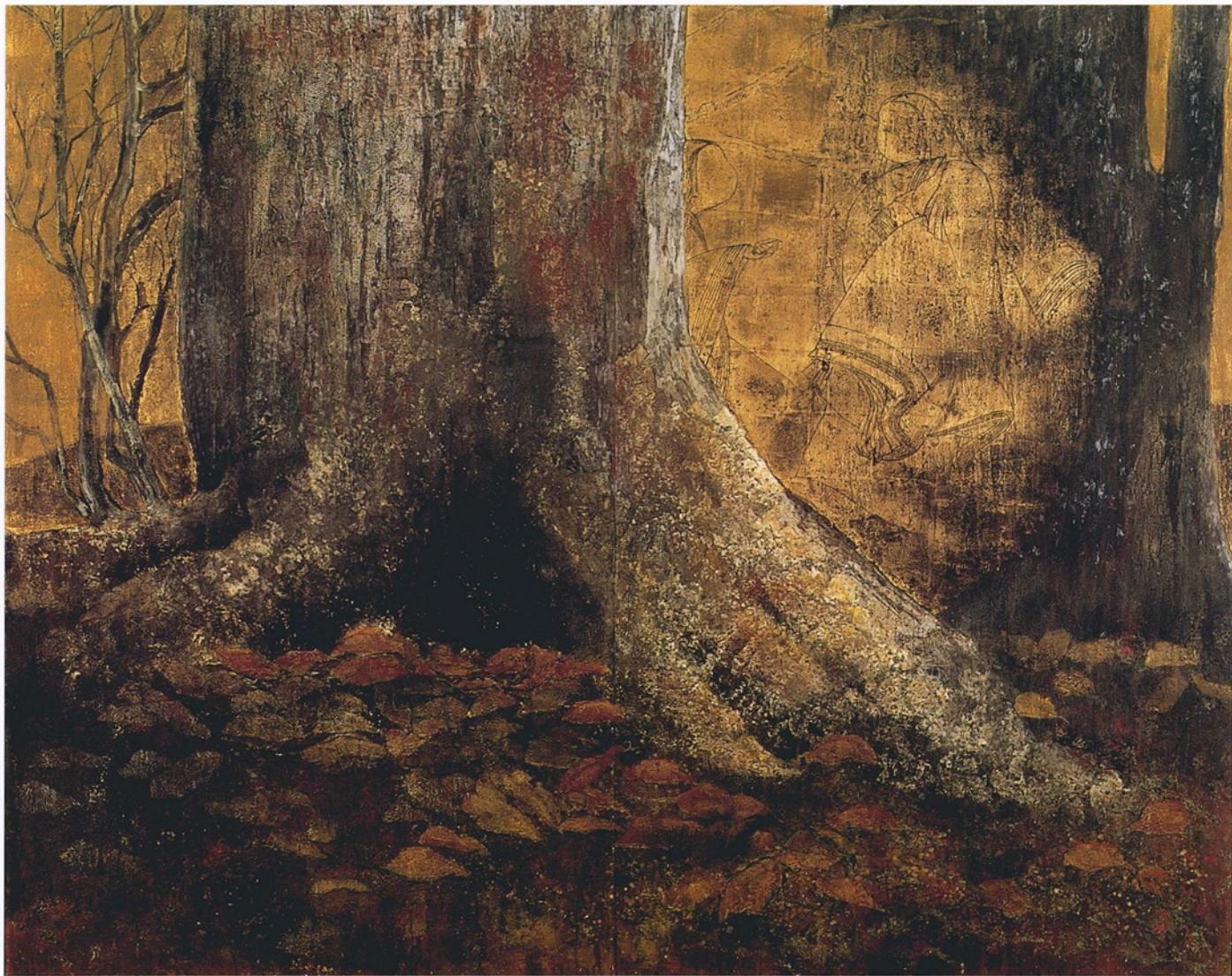
●特選／版画 草青む音……清水 美三子



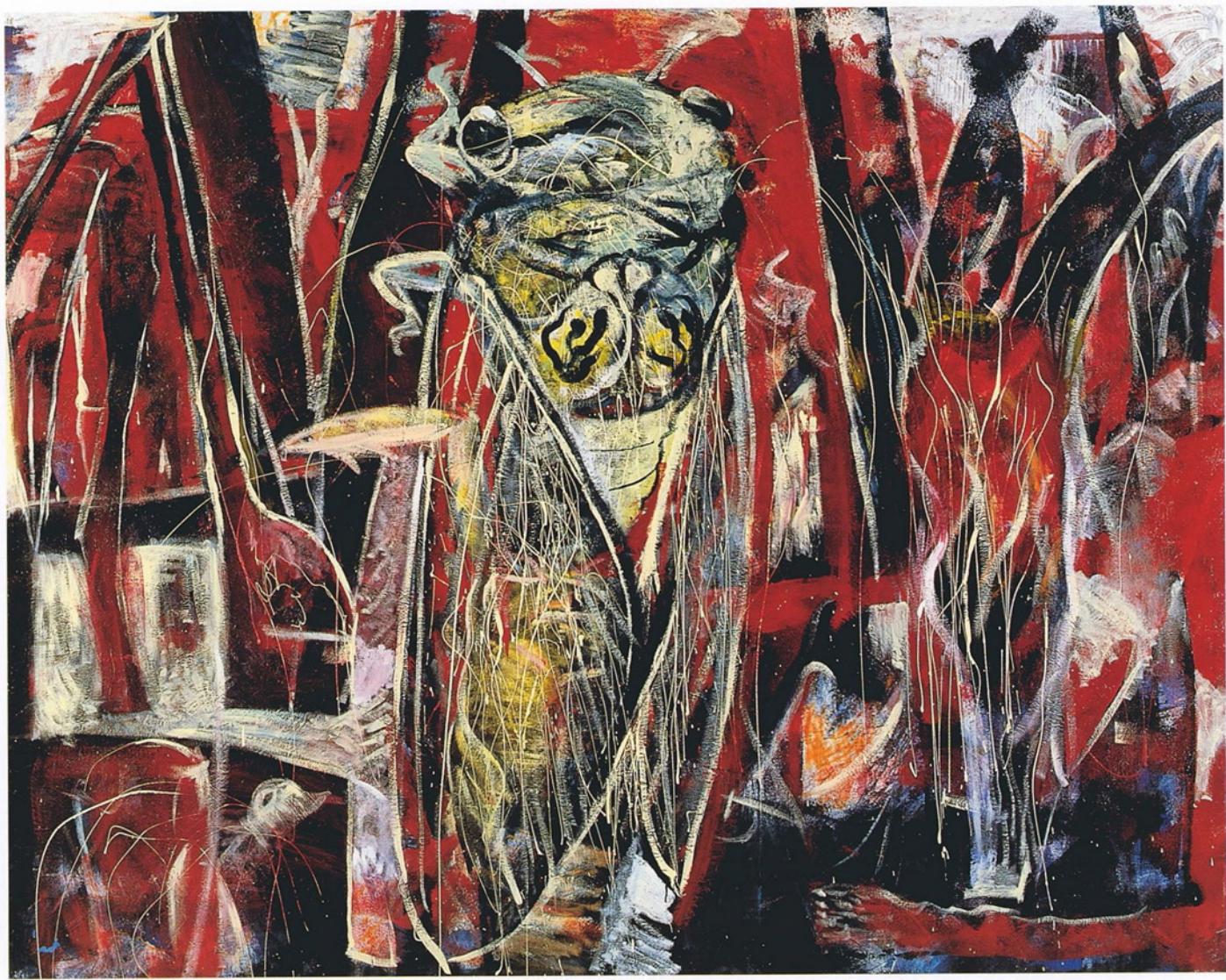
●特選／彫刻・立体造形 静と動のはざまに……石田 真利



●県立近代美術館賞／版画「記」-3-3……大槻 博



●特別奨励賞／日本画 樹……天利 重子



●特別奨励賞／洋画 日の出前……伊藤 貴祥



●特別奨励賞／版画 玩具と奴隸と暴君と……馬渡 韶子



●特別獎賞／彫刻·立體造形 BIO-93……劉 明均



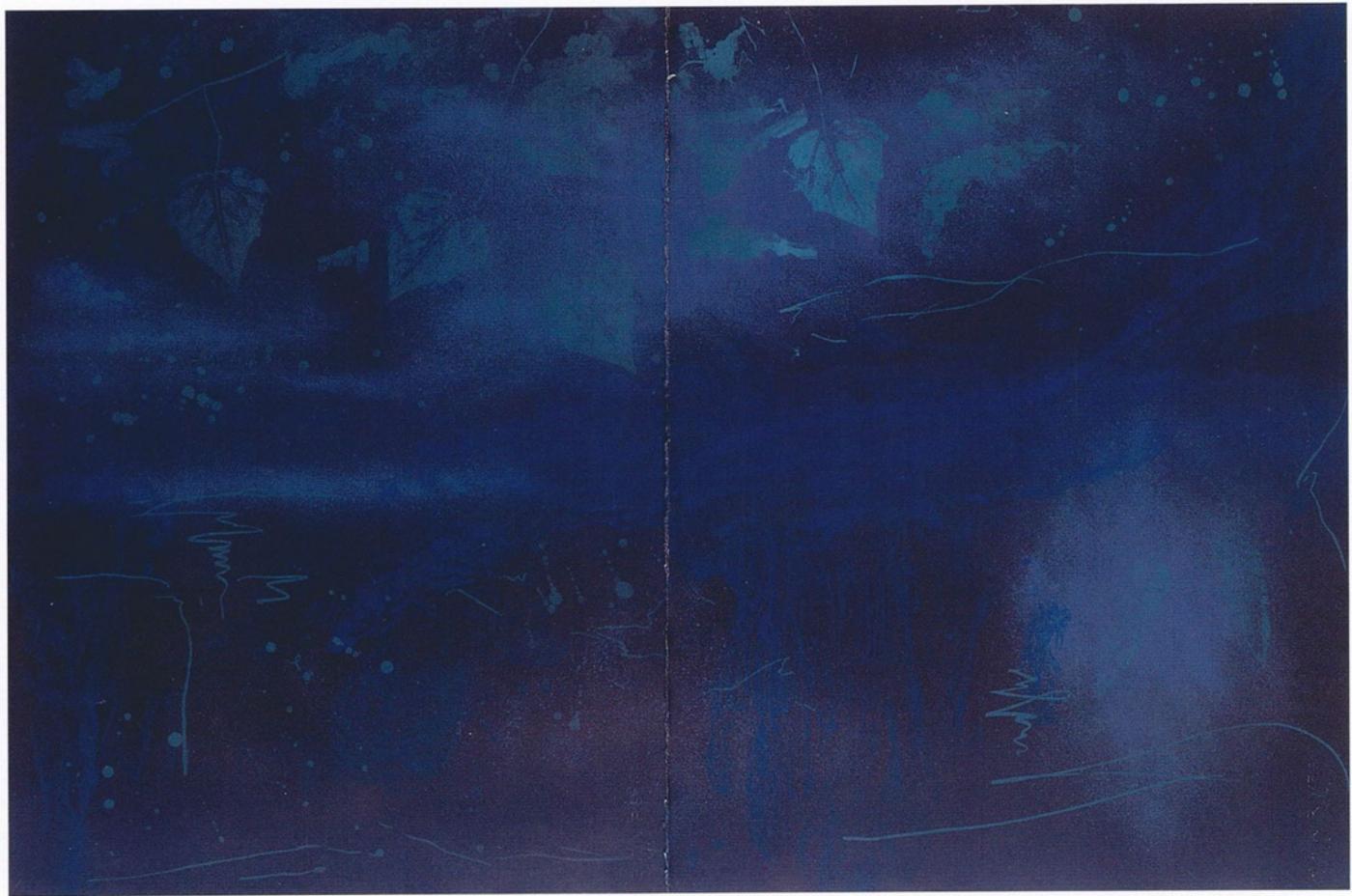
●美術獎学会賞／日本画 六月の風……月館 京子



●美術獎学会賞／洋画 封印された時間-II……瀬尾 きみ子



●美術奨学会賞／洋画 鳥達の場所……阿部 英也



●美術奨学会賞／版画 microcosm……加藤 晶



●県議会議長賞／彫刻・立体造形 巨人界・構造'93……小宮 彌栄子

受賞作品目録 [日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形 部門]

大 賞	王 青	日本画『チベットの娘』	東京都世田谷区
準 大 賞	片岡 操	彫刻・立体造形『TIME CAPSULE』	横浜市
特 選	大野 静子	日本画『家族』	横浜市
特 選	伊藤 彰 規	洋画『「彼の故郷」へ I』	横浜市
特 選	清水美三子	版画『草青む音』	東京都大田区
特 選	石田 真利	彫刻・立体造形『静と動のはざまに』	横浜市
県立近代美術館賞	大槻 博	版画『「記」-3-3』	横浜市
特別奨励賞	天利 重子	日本画『樹』	厚木市
特別奨励賞	伊藤 貴祥	洋画『日の出前』	鎌倉市
特別奨励賞	馬渡 韶子	版画『玩具と奴隸と暴君と』	川崎市
特別奨励賞	劉 明均	彫刻・立体造形『BIO-93』	川崎市
美術奨学会賞	月館 京子	日本画『六月の風』	川崎市
美術奨学会賞	瀬尾きみ子	洋画『封印された時間-II』	横浜市
美術奨学会賞	阿部 英也	洋画『鳥達の場所』	横浜市
美術奨学会賞	加藤 昌	版画『microcosm』	横浜市
県議会議長賞	小宮彌栄子	彫刻・立体造形『巨人界・構造'93』	横浜市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

[日本画]

- 三 村 伸 絵『日月抄』
北 澤 明 子『驚汀より』
霜 鳥 忍『映』
熊 谷 桃 子『亡き父を憶う』
松 原 秀 伸『松林』
小 谷 野 直 己『刻の行方』
豊 島 昭 子『とまと』
斉 藤 弥『赤地の番人』
鈴 木 國 男『Jのサマータイムドライブ』
三 須 靖 子『芽吹く玉葱』
鶴 田 耕 治『時の軌跡』
西 村 智 也 子『家族—La familia』
川 村 紫 朗『花野』
荒 井 三 重 子『ひまわり III』
石 崎 昭 亜『黒い道』

[洋画]

- 金 谷 ゆみえ『微風』
青 木 登 史 男『中』
松 沢 五 男『時空回帰・93Ⓐ』
横 山 博 志『世紀末』
藤 沢 徳 子『'93 どこかで…』
田 鳴 佳 子『鬼灯の章』
田 家 ハルミ『風の追想 I』
古 屋 京 子『cloud』
金 高 京 子『ドリーム・タウン』
横 山 将 二『作品1993-No.25』
北 浮 美 波『横たわるモデル』
前 田 啓 子『虜(とりこ) A』
山 田 晴 恵『THE GAME (II)』
谷 川 悅 子『幻の楽園 II』
浅 野 康 則『宴の後』
小 蓦 満 寿 雄『カンピドリオ広場にて』
原 田 範 夫『狂歌』
横 地 光『大地 贊歌 そのI』
古 川 勝 幸『M.S.6』
臼 居 孝 子『音を聴く』
佐々木美直子『山羊達の風景』
古怒田喜久枝『猫のいる風景 A』
平 和 夫『再会 I』
熊 田 至『断章 2』
加 藤 進『四つの形』
長 岡 一 豊『ポールをもっている少年』
杉 本 剛『無題 II』
石 樽 今 日 子『のこりもの』
石 井 誠『野に生きる』
田 端 麻 子『ことば』
小 玉 政 美『枯葉のごとく』
沢 田 滋 野『群 II』

久野弘司『並んだものたち』
西国学『From in Yokosuka life No.2』
草柳正雄『石景(挽歌)』
三橋敦子『プリマベーラ A』
小林重之『"CHI"』
桜井陽子『ONE SPACE II』
臼井恵之輔『FV 93-7』
仲圭子『受胎告知 II』
小林典子『明日への旋律』
大庭京子『永遠の森「むかしむかし」』
加藤ひろみ『時空の構造』
河上明彦『堆積の綾から』
西川美智子『ひとりびとり』
長谷川桑知子『草上の昼食』
渡部安弘『無題 (B)』
山崎仁『かぼちゃ II』
小倉信一『夜の間に ~遊園地A~』
生駒幸子『一隅 I』
竹村芳樹『青の乱調』
平沢理紀夫『イカルス・I』
戸田重堯『昼下り』
中村陽子『虚空に舞う』
肥沼守『衆-19』
藤井繁『真似嵌・滑稽なる風景』
護嶋春水『成熟の後-I』
後藤磨理子『家族』
浜野さよ子『襞(ひだ)』
中村智恵美『STILL LIFE - on the brawn 20』
小谷文承『象』
河村順明『喪いし刻』
堀岡正子『樹の譜 I』
村上遊『画室にて』

和田彰『野の意味 9306』
仲野泰生『1993 夏・還元とリズム』
大久保俊夫『スマッグ・IN (II)』
白崎裕人『おさげ髪のミヨちゃん』
中山智介『MAN & WOMAN (II)』
永野優子『Landscape 93-07』
八木哲平『BREATHE(ブリーズ)』
田中木芽『記憶の皮膜(93-赤)』
金子徹『creation field・θ(生成場)』

[版画]

- 橋本 繁『浮遊-II』
永吉友紀『夜に咲く花』
澤岡泰子『風に聴く-1993』
藤川弘子『七夕』
三塩英春『動物の默示録 I』
ウチダヨシエ『心象風景 II』
谷澤真希『勝手な必要 ②』
朴 明蘭『Transformation-B』
尾崎 浩『"TAMAGAWABELI II"』
菅野まりこ『Le Bateau』
武田律子『「石の念い」作品II』
小幡悦子『向こうのみどり』
中山岳美『宵の銀座 4』
中込洋子『原光 III』
杉田尚美『タマネギ』
鈴木良男『私のアリス I』
代情房子『生々流転 No.5』
竹村芳樹『24 Points』
藤川美子『1993・7・A』
小山 榮『地』
市川敏夫『08-1093』
時田也寸子『Slow March-9302』
和田ときわ『New Type』

[彫刻・立体造形]

- 田中忠夫『県民ギャラリーの空間』
郡田政之『ANOTHER WORLD』
阿部佳明『MEDITATION 9』
加藤 力『Untitled<振幅>』
三輪浩隆『傾きと私のはじまり』
鈴木朝湖『炎と水のレッスン3 1993、No.2』
地場賢太郎『大蛇の日』
片瀬起一郎『森の声 II』
菱刈俊作『境界の倫理について』
米原昌郎『無題』
倉橋元治『THE HOUSE』
田通栄一『命あるかぎり』
久松共子『Trip into the mind』
辻真由美『風の軌跡(月の距離)』
辻 忍『版木から』
松下誠子『ダイダラボッチの手玉』
笛井 弘『連鎖』
田中太賀志『掘出』
矢作隆一『どこに行くんだろう?』
織原友紀『成長』
山内哲也『バームツリー』
水島 茂『梓』

審査経過

日本画

●搬入点数49点(43人) ●入選点数19点(19人)

今年の日本画は昨年より出品数は減少して49点、うち入選は19点、入選率はここ数年いつも大体同じ3点に1点くらい、さて、今年は久し振りと言うより、やっと、大賞は日本画と決定、大賞選考会で気持ちよく意見は一致して、簡単に決まったがその他の賞も今年は次々と決定、1、2度の投票すべてが爽やかに終了した。

受賞者の顔ぶれも大賞は国際的なことに中国人、30代の大学院生の人である、王青「チベットの娘」は若々しい筆力でエキゾチックな墨彩画風な手法はユニーク。赤い夕陽に遠く地平線まで染る大地は美しい民族的なコスチューム、物わびしげなチベットの少女の顔の表情が深く重く表現されていてよかったです。2点出していったが二つともよく、この1点の方が表現も適確であり先ず賞候補となつたが、やがて多くの票を集め結果となった。黒と赤の色彩対比がバランスよく画面を詩い、日本画の顔料としても朱が生きていたと思う。墨もきれいで、この大賞が来年からの日本画出品者に好い意味での影響を残してくれるよう祈りたいものである……。

特選の大野静子 作者は40代、「家族」は芸術家の家族が一種児童画風な趣の面白さで目をひき大胆であるとも言える。家族の夫々によく肖て居そうである。そのせいか何か不思議な実在感があるところがよい。特別奨励賞の天利重子 作者は50代、「樹」は重々しい作品であり佳作、好感が持て年輪と努力を感じる。昔から

ある大きな樹の傍を通ると、この樹はいろいろな人間のドラマを見て来て何かを知っている、そんな物語りをしのばせるという絵、黒ずんでやや色がにごったのが惜しいと思う。美術奨学会賞の月館京子「六月の風」はそよそよと吹く山下公園あたりの初夏の陽の光りの匂う風情、草原におちる陽ざしなどがきれいにていねいに表現されていて素直で学生風なまじめさだが作者は20代の作者である。

入選の中では、三須靖子「芽吹く玉葱」は小さい作品だったが玉ねぎと野菜の構成の絵で、台所のかたすみにあるような日常的なありふれた題材をのんびりとまとめていた。西村智也子「家族—Latamilia」はやや稚拙な書き方であるが、大家族の絵も素朴でこれから何か性格などもつかんではと思うがどうであろうか。材質がまだ生かされていないところも多く、じっくりと描く時間がまず必要である。

それから選外の絵の中でも、吉田千恵「溢れる水」、匂坂均「懐旧」など又何度か同じ題材で根気よく挑戦して、何をどう表したいかという画の焦点をだんだんにしづらってゆけば日々筆を重ね想いを重ね、よくなるのではと思った。何でも努力であるから、中には今頃もう来年の作品などに就いて深く考え、コツコツと画想をこらして、すでに、こうした今、やっている人もあるかも知れない……。来年に期待してゆきたいと思う。

近藤 弘明

洋画

● 振入点数383点(219人) ● 入選点数77点(77人)

応募作品383点、前回を僅かに上回り、入選は77点、およそ5点に1点という厳しいものでした。

今日、ヨーロッパも日本も、中央も地方も総て同じレベルで日常的に往来が出来る時代です。ここ神奈川県でも世界の美術作品を見る機会は多くなりました。そのせいかどうか流行に敏感で手際のよい洗練された大作が多かったように思います。全体的にいえば特別に突出したものもなく、例年に比べて平均的にレベル以上のものだろうと思います。

作品は従来の描写力に力点を置いたものより、自分なりのかたちや獨得な構造、新しい物質や技法の表現を目指した個性的なものが圧倒的に多くなったように思います。力量や情熱を感じる出品者の熱意に触れて充実したものがありました。

選考の過程では、ありありと未熟で荒削りだが自分を偽らず独自の世界を目指したものや、単に技術的で見せ場づくりのうまい空っぽの作品よりも、作品の根底に何かが見えてくるもの、つまり発想の段階からしっかりした表現の中身を擱んでいるものが選択の中心になっていたように思う。

受賞した伊藤貴祥の『日の出前』は150号の大作で燃えるような赤をバックに画面一杯の蟬、その蟬の眼を通して見える自然なのか、ここには物質を越えた逞しい理念や表現が見えます。エネルギーが画面から押しだしてくる様な作品で、その筆致の荒々しさ

はありのままの心の流れを感じる作品でした。次に阿部英也『鳥達の場所』120号は深い奥行きを持つ白っぽい灰色の画面に描かれた無数の痕跡が温かくやさしい詩を刻むかのようです。全体を覆う鳥らしい足跡とか軌条が生きるものたちの存在をたしかにする佳作でした。瀬尾きみ子『封印された時間-II』200号は何かを暗示する灰色のかたちと光、不安定に傾斜した矩形、その空間のバランスに魅せられる作品。又伊藤彰規『彼の故郷』へ I 150号は、人には何のことだか解らないが、魅きつけられるということがあるが、黒く平らな画面に細い線で描かれたはじけて吹きあげるようなかたちが、現代的で軽い美しさを造っています。以上の受賞に惜しくも外れた候補作品にも優れたものが多かったことを記しておきたいと思います。こうした審査を通して思うことは、抽象とか具象とかいうのではない。きれいに取り澄ましたものではなく自分の体の内側から噴き上げてくるようなアリティのある作品が欲しいと思います。

神奈川県展も29回目を迎えました。何かを創り出したり、高めたりする活動は一回や二回、一年や二年で結果が出るものではありません。すべては一つの流れの中の過程にすぎない。作家の自由な創造の場をつくるこの県展も決定的には、何といっても参加される創造家達の熱意による他はないのです。

宮崎 進

版画

●搬入点数92点(43人) ●入選点数27点(27人)

いま、版画を制作する作家たちは増えているようだ。また、版画を愛好し、コレクションをしている人たちも多い。

版画は手軽な芸術のようにみえるが、本質的にはそんなものではない。複数制作できる印刷といったイメージが、芸術としての評価を低くしてしまっているのかも知れない。創作版画としての出発がおそれかすことなども原因の一つであろう。

版画についての関心は、県内では非常に強くなっている。それを示すように、応募作品の質も高く、内容も豊かであった。43名、92点という数字は、例年とあまり変わりはないようだが、大作、力作の多いのが、今年の著しい傾向だ。

作品を全部ならべて、5人の審査員が1点ずつ見ながら、合議していく。大半の作品については意見が一致していたが、ときとしては、ディスカッションとなる場合もあった。真剣ともいえる対立も生まれながら、結果的に27人、27点が入選する。

会場の制限といったこともあるが、候補に残りながら、最後に入選できなかった作品もある。いささか無惨であるが、来年度に期待したい。

特選は清水美三子「草青む音」にきまった。黒と白を基調にした清新な作品で、技術のたしかさがある。ヴァイタリティのある馬渡響子「玩具と奴隸と暴君と」(特別奨励賞)には、こめられたアレゴリーが感じられる。暗いかけのなかから浮びでたフォルムをもつ加藤晶「microcosm」(美術奨学会賞)、また、明るい記号的な作品の大槻博「記-3-3」(県立近代美術館賞)など、版画作品は多彩で、意欲的な広がりをみせている。

一般には、実験的な前衛性をもった作品が少なくなったようだ。一つのパターンにはまつた作品といってもいい。潑瀆とした気運が望まれる。

柳生 不二雄

彫刻・立体造形

●搬入点数64点(55人) ●入選点数26点(26人)

応募総数は55人・64点で、前年度56人・62点とくらべてほぼ同数であった。まず各審査員が注目される作品を15点選び、その結果2票以上獲得した作品が25点あり、その25点が入選に決定した。1票しか入らない作品でも審査員が強く推薦すれば、入選にしてもよいということになり、その結果1点が追加され、最終的に26点が入選となった。

次に賞候補作品の選考に移り、各審査員が入選作品の中から3点選び得票の高い4作品がスムーズに賞候補に選ばれた。鉄箱を床に環状につらねて、低いとりでのような構築を示す片岡操「TIME CAPSULE」。檜を削って女性の下半身のようにも見えるが、不安定な形を林立させる石田真利「静と動のはざまに」。紙を固めて怪獣のように巨大な形態をつくる劉明均「BIO-93」。巨人のような女性群像をレリーフ状に扱って迫力ある小宮彌栄子「巨人界・構造'93」。

大賞選考会で、「TIME CAPSULE」が準大賞、「静と動のはざまに」が特選、「BIO-93」が特別奨励賞、「巨人界・構造'93」が県議会議長賞にそれぞれ選ばれたのも順当だろう。

針生 一郎

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画

第2回 41年度 廣瀬 義男『作品I』洋画

第3回 42年度 垣内 治雄『坐る』彫刻

第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画

第5回 44年度 山井イク夫『Lady 70-1・2』立体造形

第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画
大久保利圀『Straw』工芸
西川 万象『廬子諒詩』書
加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真

第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画
島津碧嵒『寒山詩』書
大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真

第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画
林 良達『騎士』工芸

第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻
石川 充宏『Girl in chair』工芸

第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画

第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸

第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画

第13回 52年度 井上 麦『黒の女-'77』彫刻

第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形

第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋 I・II』日本画
川口 流坡『菅原道真詩』書

第16回 55年度 和久井 Who『HANGING』立体造形
市原 欣一『ふるさと』写真

第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻
高木 参平『BODY』工芸

第18回 昭和57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画

井上 隆敏『イグナドバ選手』写真

第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻
茶木 静谷『竹囲松影』書

第20回 59年度 東谷 武美『日蝕F』版画
西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻
林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸

第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画
石渡 四郎『硫黄島の再会』写真

第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻
浜本 哲舟『良寛詩』書

第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形
森山 可余『俳句(原石鼎)』書

第24回 63年度 三枝 孝司『複製させた場所』版画
菅間 ゆみい『夢印象』工芸

第25回 平成元年度 セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻
片岡 順一『大気現象』3枚組写真

第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画
高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸

第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻
相沢 淳一『樹界』2枚組写真

第28回 4年度 たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』彫刻・立体造形
中森 万象『郎士元詩』書

第29回 5年度 王 青『チベットの娘』日本画
平野 朱美『電解ザウルス』工芸

第29回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉遊亀
斎藤義重
圓鍔勝三
蓮田脩吾郎
殿村藍田
比田井南谷

委員会委員

委員長
上野 豊
副委員長
菅原寿雄
美術展委員
井上信道
奥村泰宏
加藤東一
神戸由雄
國領經郎
斎藤義重
酒井忠康
匠秀夫
弦田平八郎
殿村藍田
永井鐵太郎
中原佑介
針生一郎
柳生不二雄
吉田耕三
渡辺豊重

大賞選考委員

日本画、洋画、版画
彫刻・立体造形
近藤弘明
弦田平八郎
國領經郎
酒井忠康
柳生不二雄
渡辺豊重
井上信道
斎藤義重

工芸、書、写真
永井鐵太郎
吉田耕三
菅原寿雄
殿村藍田
奥村泰宏
三輪晃久

審査員

日本画	
片岡 球子	
工藤 甲人	
近藤 弘明	
弦田 平八郎	
洋画	
國領 経郎	
酒井 忠康	
佐々木 豊	
匠秀夫	
宮崎 進	
吉田 克朗	
版画	
日下 賢二	
柄木 順子	
原 健	
柳生 不二雄	
渡辺 豊重	
彫刻・立体造形	
井上 信道	
小島 弘	
斎藤 義重	
中原 佑介	
針生 一郎	
藤田 昭子	

工芸	
大森 邦	
岡村 康子	
佐野 登志子	
高木 参平	
永井 鐵太郎	
永井 ひとみ	
吉田 耕三	
書	
飯田 美砂子	
川瀬 魚石	
篠田 朋泉	
島津 碧嵒	
菅原 寿雄	
竹田 悅堂	
殿村 藍田	
丹羽 蒼処	
写真	
大河原 雅彦	
奥村 泰宏	
常盤 刀洋子	
藤沢 正実	
三輪 晃久	

日本画	
◎大山 鎮	
斎藤 典彦	
能島 和明	
洋画	
石田 茂嗣	
◎白鳥 三郎	
鈴木 雪子	
松野 俊雄	
森山 杏子	
版画	
◎大庭 明子	
近藤 憲昭	
三枝 孝司	
彫刻・立体造形	
井上 麦	
◎井上しげこ	
奥野 ゆか	
長江 真弥	

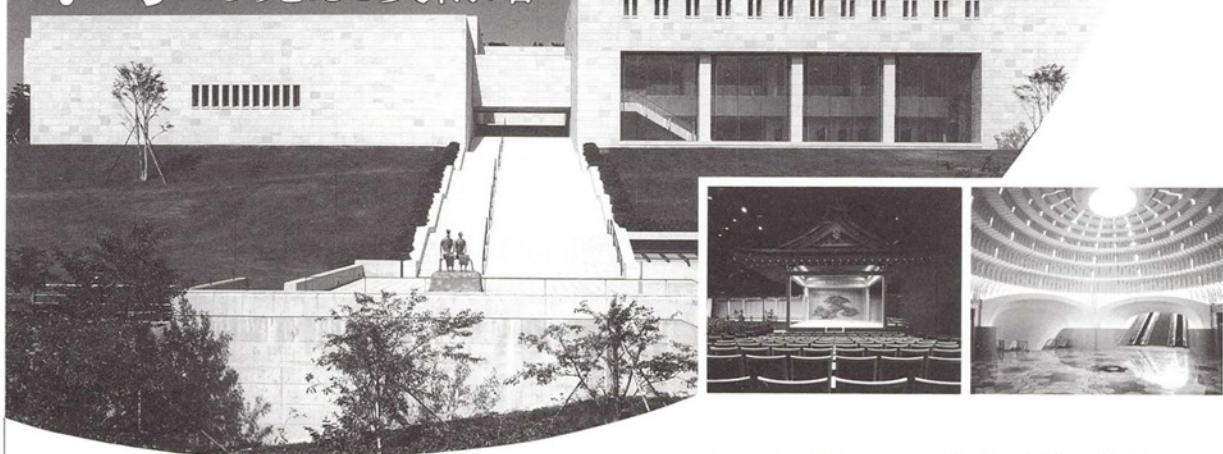
工芸	
飯野 啓三	
勝 藤 文彦	
工藤 直	
斎藤 孝子	
◎芝山 吉邦	
坪内 君子	
尾留 川忠	
松本 祐昌	
書	
河合 瑞祥	
鈴木 蓉右	
◎仙場 羊子	
高木 幸子	
船本 芳雲	
松岡 梅影	
写真	
阿部 夕モツ	
篠崎 明弘	
鈴木 健夫	
高橋 勤	
中島 倍三	
◎三井 文一	
吉田 健吉郎	

◎は実行委員長



ごあんない

海の見える美術館



開館／9:30AM～5:00PM（入館は4:30PMまで）

休館／毎週木曜日（祝日は開館）

●熱海駅よりバス④番のりばMOA美術館行

MOA美術館

住所／熱海市桃山町26-2 TEL(0557)84-2511

ココロが、騒ぐ。

30周年への扉がひらきます

The ダイヤモンド 横浜
西口

180店舗からならぶトラマチックなショッピングタウン。 営業時間：物品販売店 10:00～20:30 飲食店 11:00～22:00（一部21:00）



濱つ子、キャリア。

横浜駅東口

PORTA

営業時間 AM10:00～PM8:30
(飲食店AM11:00～PM10:00)

都会派の新ギフト
プリペイドの タカシマヤ バラカード



タカシマヤ バラカードは、新ジャンルの生活百貨カードです。
●1,000円 ●3,000円 ●5,000円 ●10,000円 ●30,000円 ●50,000円 ●100,000円の7種類
タカシマヤ バラカード、こんなところが便利です。

①お買物のたびごとにわざわざされる小銭の心配がありません。②ご贈答用にスマート。③ギフトパッケージ(無料・有料の専用パッケージ)を各種ご用意いたしております。④裏面にはご利用月日と残額が30回まで表示されます。

※なお、ご利用回数が30回をこえたカードにつきましては、高島屋各店の商品券売場にてご利用残高分のカードを再発行いたします。※タカシマヤ バラカードは、ギフトカード1,000円券などの一部の商品を除き各店でのお買物にご利用いただけます。

※バラカードをお求めの際には消費税がかかりません。

バラカードのお求めは

- 横浜店：1階商品券サロン・6階商品券売場で承ります。

——全館夜7時まで営業——



Takashimaya YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111/水曜定休

くらしの愛言葉、AMカード。



SHOPPING

お支払いは4つのコース

- ①リボルビング払い(月々5千円、1万円、2万円、と3種類のご指定のコースによるお支払い)
- ②分割払い(3回、6回、10回、12回、15回、20回の中からお選びいただけます)
- ③1回払い(ご優待割引の特典)
- ④ボーナス一括払い(手数料は不要)

お申込み・お問い合わせは

クレジットカウンターまで

- 川崎店=6階
- 横須賀店=新館3階
- 藤沢店=4階

CASHING

さいか屋各店の専用COP機で

リボ払いOK/
暗証番号と金額を押すだけで日曜・
祝日もご利用いただけます。

専用COP機設置場所

- 川崎店=8階
- 横須賀店=大通り館3階
- 藤沢店=1階



さいか屋

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■文具館 横浜・馬車道 TEL.(045)662-1231

■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 5F TEL.(0466)26-1411

■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811

■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ルミネ店は書道用品・日本画材のみ取扱っております。

横浜馬車道 有隣堂ギャラリー (有隣堂文具館 7F)

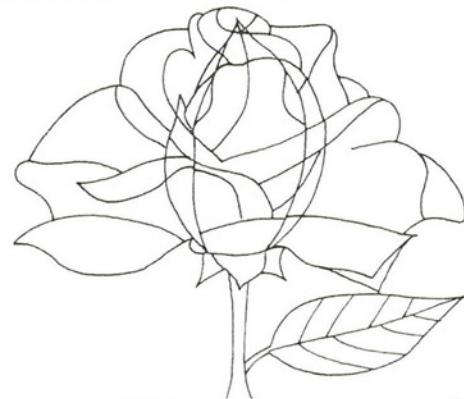
《個展・グループ展》申込承り中

地下鉄関内駅馬車道口下車1分・JR関内駅北口下車3分

※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝課ギャラリー係 ☎(045)825-5505

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といいたしく篤志家の御寄付をお願いしております。

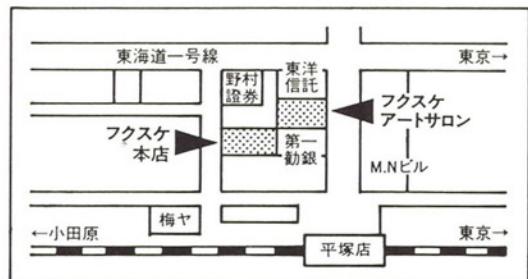
皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。



湘南の文化を
支えて20年。

- 企画展
 - 貸画廊
- 御相談下さい。



油絵・日本画・掛軸・扁額・工芸美術品・置物・アクセサリー・画材
**企画
貸画廊**

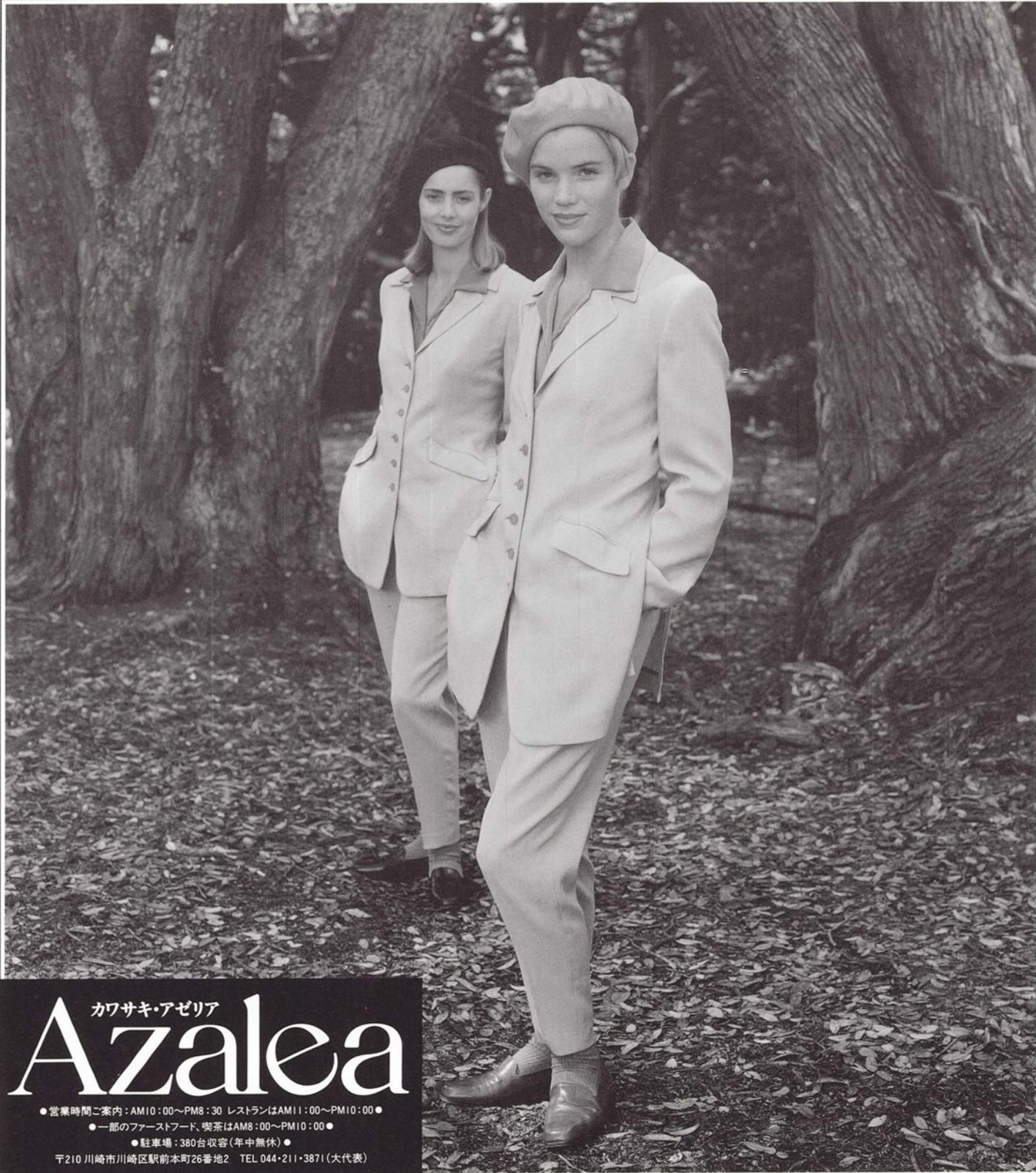
本店：平塚市紅谷町2-9
画材部：(ホルベイン画材特約店) 本店3F
アートサロン店：平塚市紅谷町2-18
平塚西店：(平塚ダイクマ店)

☎0463(21)2303

☎0463(21)0250

☎0463(34)6738

美しいことに、めぐり逢いたい。



Azalea

カワサキ・アゼリア

●営業時間ご案内：AM10:00～PM8:30 レストランはAM11:00～PM10:00●

●一部のファーストフード、喫茶はAM8:00～PM10:00●

●駐車場：380台収容（年中無休）●

〒210 川崎市川崎区駅前本町26番地2 TEL 044-211-3871(大代表)

い い 顔 し て 生 き て い こ う よ。



43の専門ショップがおとどけする
超個性ファッション&グッズ。
バラエティに富んだ30のおいしさが
集うティスティ・ステージ。

〒231 横浜市中区真砂町3-33(JR・地下鉄関内駅前) TEL045-651-1431

Good for you
CERTE



情報を力タチにします。

私たちはさまざまな表現を使って情報を力タチにし、
確かな手応えのある
コミュニケーションツールの創造に努めます。

株式会社

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231 (045)681-0861㈹ FAX.(045)664-5901
営業本部・工場／横浜市南区新川町1-2 〒232 (045)252-2511㈹ FAX.(045)252-8826
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17 〒105 (03)5401-1231㈹ FAX.(03)5401-1230

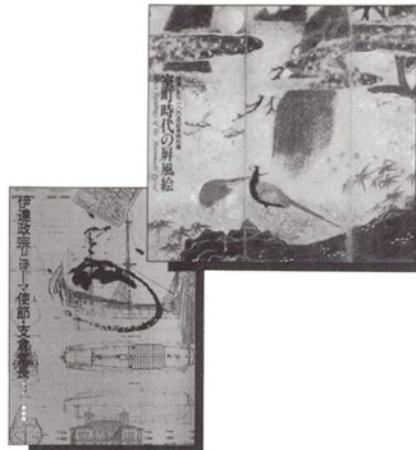
たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY “INSPIRATION”
The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展・VENUS DE MILO
ツタンカーメン展・TUTANKHAMEN
レンブラント名作展・EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展・EXPO'70 ART EXH.
ゴヤ展・GOYA EXH.
モナ・リザ展・MONA LISA EXH.
東大寺展・EXH. OF TODAIJI TEMPLE
江戸大美術展・THE GREAT JAPAN EXH.
将軍の時代展・THE SHOGUN AGE EXH.
インド古代彫刻展・ANCIENT SCULPTURES OF INDIA
比叡山と天台の美術展・THE ART OF TENDAI BUDDHISM
ロダン展・AUGUSTE RODIN EXH.
黄河文明展・EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER
薬師寺展・EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE
日タイ修好100周年展・EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND
世界現代ガラス展・WORLD GLASS NOW EXH.
神々のかたち—仮面と神像・THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS
シーボルトと日本・VON SIEBOLD AND JAPAN
大エジプト展・THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT
17世紀オランダ絵画展・HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH
柿右衛門展・KAKIEMON STYLE WARE EXH.
スミソニアン—アメリカの大発明展・SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY
鎌倉彫刻展・UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)
ミレー展・MILLET EXH.
大英博物館展・THE BRITISH MUSEUM EXH.
中国兵馬俑展・CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.
トカラ宮殿秘蔵展・THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION : OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE
日本国宝展・NATIONAL TREASURES OF JAPAN
ローマの支倉常長展・HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME
ユーロパリア展・EUROPAlia EXH.
ヴァチカン展・MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN
三井寺秘宝展・ART TREASURES OF MII-DERA TEMPLE



「信頼と技術」で 美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海・陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北支店 ☎045-521-2222

発行・神奈川県美術展委員会

事務局：神奈川県民部文化室

表紙デザイン・株式会社伊藤隆之デザイン事務所

撮影・菊屋写真工房・大橋一彦

本文デザイン・株式会社エイ・シー・ピー

制作・株式会社野毛印刷社

